

Nikon

デジタルカメラ

D7200

メニューガイド

本書では、メニューについての詳細およびパソコンやプリンター、テレビとの接続や、使用できるアクセサリーなどの説明が記載されています。カメラの基本的な使用方法については、カメラに付属の使用説明書をご覧ください。

Jp

目次

メニューガイド 9

初期設定一覧	9
▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能	18
再生メニュー項目一覧	18
削除	19
再生フォルダー設定	19
非表示設定	20
再生画面設定	22
画像コピー	22
撮影直後の画像確認	27
削除後の次再生画像	27
縦位置自動回転	27
スライドショー	28
プリント指定 (DPOF)	29
📷 静止画撮影メニュー：静止画撮影で使える便利な機能	30
静止画撮影メニュー項目一覧	30
静止画撮影メニューのリセット	31
記録フォルダー設定	31
ファイル名設定	34
スロット 2 の機能	35
画質モード	36
画像サイズ	37
撮像範囲	37
JPEG 圧縮	38
RAW 記録	38
ホワイトバランス	39

ピクチャーコントロール.....	40
カスタムピクチャーコントロール.....	40
色空間.....	41
アクティブ D- ライティング.....	41
HDR (ハイダイナミックレンジ).....	42
ヴェネットコントロール.....	42
自動ゆがみ補正.....	43
長秒時ノイズ低減.....	44
高感度ノイズ低減.....	44
ISO 感度設定.....	45
リモコンモード設定 (ML-L3).....	46
多重露出.....	46
インターバルタイマー撮影.....	47
▶ 動画撮影メニュー：動画撮影で使える便利な機能.....	48
動画撮影メニュー項目一覧.....	48
動画撮影メニューのリセット.....	49
ファイル名設定.....	49
ファイル記録先.....	49
画像サイズ / フレームレート.....	50
動画の画質.....	51
マイク感度.....	51
録音帯域.....	52
風切り音低減.....	52
撮像範囲.....	52
ホワイトバランス.....	53
ピクチャーコントロール.....	53
カスタムピクチャーコントロール.....	53
高感度ノイズ低減.....	53
動画 ISO 感度設定.....	54
微速度撮影.....	55

 カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定	56
カスタムメニュー項目一覧	57
カスタムメニューのリセット	58
a：オートフォーカス	59
a1：AF-C モード時の優先	59
a2：AF-S モード時の優先	59
a3：AF ロックオン	60
a4：半押し AF レンズ駆動	60
a5：フォーカスポイント表示	61
a6：フォーカスポイント循環選択	62
a7：AF 点数切り換え	62
a8：縦 / 横位置フォーカスポイント切換	63
a9：内蔵 AF 補助光の照射設定	64
b：露出・測光	65
b1：ISO 感度設定ステップ幅	65
b2：露出設定ステップ幅	65
b3：露出補正簡易設定	66
b4：中央部重点測光範囲	67
b5：基準露出レベルの調節	67
c：AE ロック・タイマー	68
c1：半押し AE ロック	68
c2：半押しタイマー	68
c3：セルフタイマー	68
c4：モニターのパワーオフ時間	69
c5：リモコン待機時間 (ML-L3)	69
d：撮影・記録・表示	70
d1：電子音設定	70
d2：低速連続撮影	71
d3：連続撮影コマ数	71
d4：露出ディレーモード	72
d5：フラッシュ使用推奨表示	72

d6：連番モード	72
d7：ファインダー内格子線表示	73
d8：ISO 感度の簡易設定	73
d9：インフォ画面の表示設定	74
d10：イルミネーター点灯	74
d11：MB-D15 電池設定	75
d12：電池の使用順序	77
e：フラッシュ・BKT 撮影	78
e1：フラッシュ撮影同調速度	78
e2：フラッシュ時シャッタースピード制限	80
e3：内蔵フラッシュ発光	80
e4：フラッシュ使用時の露出補正	87
e5：モデリング発光	88
e6：オートブラケティングのセット	88
e7：BKT の順序	89
f：操作	90
f1：OK ボタンの機能	90
f2：Fn ボタンの機能	91
f3：プレビューボタンの機能	96
f4：AE/AF ロックボタンの機能	96
f5：コマンドダイヤルの設定	98
f6：ボタンのホールド設定	101
f7：カードなし時リリース	102
f8：インジケーターの+ / - 方向	102
f9：動画撮影ボタンの機能	103
f10：MB-D15 の  ボタンの機能	104
f11：リモコン (WR) の Fn ボタンの機能	105
g：動画	107
g1：Fn ボタンの機能	107
g2：プレビューボタンの機能	108
g3：AE/AF ロックボタンの機能	108
g4：シャッターボタンの機能	109

🔑 セットアップメニュー：

カメラを使いやすくする基本設定.....	110
セットアップメニュー項目一覧.....	110
カードの初期化（フォーマット）.....	111
ユーザーセッティングの登録.....	111
ユーザーセッティングのリセット.....	113
モニターの明るさ.....	114
モニターのカラーカスタマイズ.....	115
イメージセンサークリーニング.....	116
クリーニングミラーアップ.....	116
イメージダストオフデータ取得.....	117
フリッカー低減.....	119
地域と日時.....	120
言語（Language）.....	121
縦横位置情報の記録.....	121
電池チェック.....	122
画像コメント.....	123
著作権情報.....	124
カメラ設定の保存と読み込み.....	125
水準器表示.....	128
レンズ情報手動設定.....	129
AF 微調節.....	129
HDMI.....	131
位置情報.....	131
Wi-Fi.....	132
NFC.....	133
ネットワーク.....	133
Eye-Fi 送信機能.....	133
認証マークの表示.....	135
ファームウェアバージョン.....	135

 画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能.....	136
画像編集メニュー項目一覧	136
D-ライティング	139
赤目補正.....	140
トリミング.....	141
モノトーン.....	142
フィルター効果	143
画像合成.....	144
RAW 現像（パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に変換する）.....	147
リサイズ.....	149
簡単レタッチ	152
傾き補正.....	152
ゆがみ補正.....	153
魚眼効果.....	154
塗り絵.....	154
カラースケッチ	155
アオリ効果.....	156
ミニチュア効果	157
セレクトカラー	158
動画編集.....	161
編集前後の画像表示.....	161
 マイメニュー /  最近設定した項目	163
 マイメニュー：よく使うメニューを登録する.....	163
 最近設定した項目：最近設定したメニューを たどる	168

パソコンに画像を取り込む方法.....	169
ViewNX-i をインストールする.....	169
ViewNX-i を使ってパソコンに画像を取り込む.....	170
有線 LAN/ 無線 LAN を使ってパソコンに画像を 転送する.....	173
画像を印刷する方法.....	175
カメラとプリンターを接続する.....	175
1 コマだけプリントする.....	176
複数の画像をプリントする.....	178
プリントしたい画像を指定する (プリント指定).....	180
画像をテレビで見る方法.....	182
HDMI ケーブルを使ってハイビジョンテレビと 接続する.....	182
HDMI 対応機器との接続時の設定を変更する.....	183
使用できるアクセサリ.....	186
カメラとパワーコネクター、AC アダプターの 接続方法.....	191
撮影モードによって設定に制限がある機能一覧.....	193
撮影モード P (プログラムオート) のプログラム線図.....	195
AF 補助光撮影、内蔵フラッシュ撮影に制限のある レンズについて.....	196

メニューガイド

初期設定一覧

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップの各メニューの初期設定は次の通りです。ツーボタンリセット、静止画撮影メニュー [静止画撮影メニューのリセット] (□31)、動画撮影メニュー [動画撮影メニューのリセット] (□49)、またはカスタムメニュー [カスタムメニューのリセット] (□58) を行うと、それぞれの項目の設定をリセットできます。

再生メニューの初期設定

再生メニュー項目	初期設定
[再生フォルダー設定] (□19)	D7200
[撮影直後の画像確認] (□27)	しない
[削除後の次再生画像] (□27)	後ろのコマ
[縦位置自動回転] (□27)	する
[スライドショー] (□28)	
[再生画像の種類]	静止画と動画
[インターバル設定]	2 秒

■■ 静止画撮影メニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、静止画撮影メニューの「静止画撮影メニューのリセット」を行います (☐31)。

メニュー項目	初期設定
[ファイル名設定] (☐34)	DSC
[スロット2の機能] (☐35)	順次記録
[画質モード] (☐36)	NORMAL
[画像サイズ] (☐37)	サイズL
[撮像範囲] (☐37)	DX (24×16)
[JPEG圧縮] (☐38)	サイズ優先
[RAW記録] (☐38)	
[記録方式]	ロスレス圧縮RAW
[記録ビットモード]	14ビット記録
[ホワイトバランス] (☐39)	オート：標準
微調整値	A-B：0、G-M：0
色温度設定	5000K
プリセットマニュアル	d-1
[ピクチャーコントロール] (☐40)	スタンダード
[色空間] (☐41)	sRGB
[アクティブ D-ライティング] (☐41)	P、S、A、M、  、  、  、  、  、  、  、 
	しない
	その他の撮影モード*
	オート
[HDR (ハイダイナミックレンジ)] (☐42)	
[HDRモード]	しない
[HDR強度]	オート
[ヴィネットコントロール] (☐42)	標準
[自動ゆがみ補正] (☐43)	しない
[長秒時ノイズ低減] (☐44)	しない
[高感度ノイズ低減] (☐44)	標準

メニュー項目		初期設定
[ISO感度設定] (□45)		
[ISO感度]	P、S、A、M	100
	その他の撮影モード	オート
[ISO/Hi感度コマンドダイヤル変更]		しない
[感度自動制御]		しない
[リモコンモード設定 (ML-L3)] (□46)		
[多重露出] (□46) *		
[多重露出モード]		しない
[コマ数]		2
[自動ゲイン補正]		する
[インターバルタイマー撮影] (□47)		
開始方法の設定		即時スタート
撮影間隔		1分
撮影回数×1回のコマ数		0001×1
露出平滑化		しない

※ 多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから解除されるまで**[静止画撮影メニューのリセット]** を選択できません。

■ 動画撮影メニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、動画撮影メニューの [動画撮影メニューのリセット] を行います (□49)。

メニュー項目	初期設定
[ファイル名設定] (□49)	DSC
[ファイル記録先] (□49)	スロット1
[画像サイズ/フレームレート] (□50)	1920×1080 30p
[動画の画質] (□51)	標準
[マイク感度] (□51)	マイク感度 オート
[録音帯域] (□52)	広帯域
[風切り音低減] (□52)	しない
[撮像範囲] (□52)	DX (24×16)
[ホワイトバランス] (□53)	静止画の設定と同じ
微調整値	A-B : 0、G-M : 0
色温度設定	5000K
プリセットマニュアル	d-1
[ピクチャーコントロール] (□53)	静止画の設定と同じ
[高感度ノイズ低減] (□53)	標準
[動画ISO感度設定] (□54)	
[Mモード時のISO感度設定]	100
[Mモード時の感度自動制御]	しない
[制御上限感度]	25600
[微速度撮影] (□55)	
撮影間隔	5秒
撮影時間	25分
露出平滑化	する

■ カスタムメニューの初期設定

ご購入時の設定に戻すには、カスタムメニューの [カスタムメニューのリセット] を行います (□58)。

カスタムメニュー項目		初期設定
a1	[AF-Cモード時の優先] (□59)	リリース
a2	[AF-Sモード時の優先] (□59)	フォーカス
a3	[AFロックオン] (□60)	3 (標準)
a4	[半押しAFレンズ駆動] (□60)	する
[フォーカスポイント表示] (□61)		
a5	[フォーカスポイント照明]	オート
	[マニュアルフォーカス時の表示]	する
a6	[フォーカスポイント循環選択] (□62)	しない
a7	[AF点数切り換え] (□62)	51点
a8	[縦/横位置フォーカスポイント切換] (□63)	しない
a9	[内蔵AF補助光の照射設定] (□64)	する
b1	[ISO感度設定ステップ幅] (□65)	1/3 段
b2	[露出設定ステップ幅] (□65)	1/3 段
b3	[露出補正簡易設定] (□66)	しない
b4	[中央部重点測光範囲] (□67)	φ 8 mm
[基準露出レベルの調節] (□67)		
b5	[マルチパターン測光]	0
	[中央部重点測光]	0
	[スポット測光]	0

カスタムメニュー項目		初期設定
c1	[半押しAEロック] (□68)	しない
c2	[半押しタイマー] (□68)	6秒
c3	[セルフタイマー] (□68)	
	[時間]	10秒
	[撮影コマ数]	1
	[連続撮影間隔]	0.5秒
c4	[モニターのパワーオフ時間] (□69)	
	[画像の再生]	10秒
	[メニュー表示]	1分
	[インフォ画面表示]	10秒
	[撮影直後の画像確認]	4秒
	[ライブビュー表示]	10分
c5	[リモコン待機時間 (ML-L3)] (□69)	1分
d1	[電子音設定] (□70)	
	[音量]	電子音なし
	[音の高さ]	低音
d2	[低速連続撮影] (□71)	3コマ/秒
d3	[連続撮影コマ数] (□71)	100
d4	[露出ディレーモード] (□72)	しない
d5	[フラッシュ使用推奨表示] (□72)	する
d6	[連番モード] (□72)	する
d7	[ファインダー内格子線表示] (□73)	しない
d8	[ISO感度の簡易設定] (□73)	しない
d9	[インフォ画面の表示設定] (□74)	自動
d10	[イルミネーター点灯] (□74)	しない
d11	[MB-D15電池設定] (□75)	アルカリ単3形電池
d12	[電池の使用順序] (□77)	MB-D15から

カスタムメニュー項目		初期設定
e1	[フラッシュ撮影同調速度] (□78)	1/250 秒
e2	[フラッシュ時シャッタースピード制限] (□80)	1/60 秒
e3	[内蔵フラッシュ発光] / [外付けフラッシュ発光] (□80)	TTLモード
e4	[フラッシュ使用時の露出補正] (□87)	全体を補正
e5	[モデリング発光] (□88)	する
e6	[オートブラケットングのセット] (□88)	AE・フラッシュブラケ ティング
e7	[BKTの順序] (□89)	[0] → [-] → [+]
f1	[OKボタンの機能] (□90)	
	[撮影モード]	フォーカスポイント 中央リセット
	[再生モード]	1コマとサムネイルの 切り換え
	[ライブビュー]	フォーカスポイント 中央リセット
f2	[Fnボタンの機能] (□91)	
	[押し時の動作]	設定しない
	[コマンドダイヤル併用時の動作]	撮像範囲選択
f3	[プレビューボタンの機能] (□96)	
	[押し時の動作]	プレビュー
	[コマンドダイヤル併用時の動作]	設定しない
f4	[AE/AFロックボタンの機能] (□96)	
	[押し時の動作]	AE-L/AF-L
	[コマンドダイヤル併用時の動作]	設定しない

	カスタムメニュー項目	初期設定
f5	[コマンドダイヤルの設定] (□98)	
	[回転方向の変更]	露出補正の設定時： <input type="checkbox"/> シャッタースピード/ 絞り値の設定時： <input type="checkbox"/>
	[メインとサブの入れ換え]	露出設定：しない AF設定：しない
	[絞り値の設定方法]	サブコマンドダイヤル
	[再生/メニュー画面で使用]	しない
	[サブコマンドダイヤルで画像送り]	10コマ
f6	[ボタンのホールド設定] (□101)	しない
f7	[カードなし時リリース] (□102)	リリース許可
f8	[インジケータの+/-方向] (□102)	
f9	[動画撮影ボタンの機能] (□103)	
	[コマンドダイヤル併用時の動作]	設定しない
f10	[MB-D15の $\text{\textcircled{L}}$ ボタンの機能] (□104)	AE-L/AF-L
f11	[リモコン (WR) のFnボタンの機能] (□105)	設定しない
g1	[Fnボタンの機能] (□107)	
	[押し時の動作]	設定しない
g2	[プレビューボタンの機能] (□108)	
	[押し時の動作]	インデックスマーキング
g3	[AE/AFロックボタンの機能] (□108)	
	[押し時の動作]	AE-L/AF-L
g4	[シャッターボタンの機能] (□109)	静止画撮影

■ セットアップメニューの初期設定

セットアップメニュー項目	初期設定
[ユーザーセッティングの登録] (□111)	
[U1に登録]	撮影モードPの初期設定
[U2に登録]	撮影モードPの初期設定
[モニターの明るさ] (□114)	0
[モニターのカラースタマイズ] (□115)	A-B : 0、G-M : 0
[イメージセンサークリーニング] (□116)	
[電源スイッチに連動]	電源ONとOFFで実行
[フリッカー低減] (□119)	オート
[地域と日時] (□120)	
[夏時間の設定]	しない
[縦横位置情報の記録] (□121)	する
[HDMI] (□183)	
[出力解像度]	オート
[機器制御]	する
[詳細設定]	出力レンジ：オート 出力画面サイズ：100% ライブビュー時の 情報表示：する モニターの同時表示：する
[位置情報] (□131)	
[半押しタイマー]	有効
[衛星による日時合わせ]	する
[Wi-Fi] (□132)	
[通信機能]	無効
[NFC] (□133)	有効
[Eye-Fi送信機能] (□133)	有効

再生メニュー：再生で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの再生メニューアイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。



再生メニュー項目一覧

再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	📖	メニュー項目	📖
削除	19	撮影直後の画像確認	27
再生フォルダー設定	19	削除後の次再生画像	27
非表示設定	20	縦位置自動回転	27
再生画面設定	22	スライドショー	28
画像コピー	22	プリント指定 (DPOF)	180

📌 関連ページ

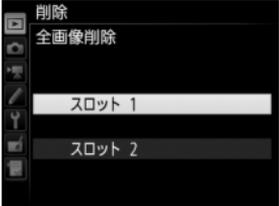
「再生メニューの初期設定」(📖9)

削除

MENUボタン → 再生メニュー

複数の画像を一括して削除するときに使います。

選択画像削除	選択した画像を削除します。
日付選択	選択した日付に撮影した画像を一括で削除します。
ALL 全画像削除	<p>[再生フォルダー設定] で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none">SDカードを2枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。



再生フォルダー設定

MENUボタン → 再生メニュー

画像はSDカード内のフォルダーに保存されます。

画像の再生時に表示するフォルダーを設定します。

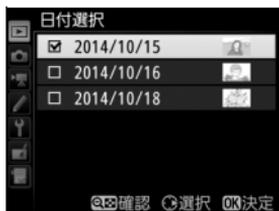
D7200	D7200で作成された全てのフォルダー内の画像を再生します。
全てのフォルダー	SDカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

非表示設定

MENUボタン → 再生メニュー

非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。

設定	画像ごとに非表示設定します。
日付選択	<p>選択した日付に撮影した画像を一括で非表示設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 非表示設定したい日付を選び、マルチセクターの\odotを押すと、日付の左側のチェックボックスがオン\checkmarkになります。• もう一度\odotを押すと、チェックボックスがオフ\squareになります。• \odotボタンを押すと、設定を完了します。
一括解除	非表示設定を一括で解除します。



■ 画像ごとに非表示設定する

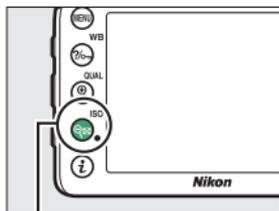
1 [設定] を選ぶ

- [設定] を選んでマルチセクターの \odot を押すと、画像の選択画面が表示されます。



2 非表示する画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選び、**ISO** ボタンを押して設定します。設定すると **ISO** が表示されます。もう一度 **ISO** ボタンを押すと、**ISO** が消えます。
- 非表示にする画像全てに設定してください。
- **QUAL** ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



ISO ボタン



3 設定を完了する

- **OK** ボタンを押して、設定を終了します。

✓ 非表示設定についてのご注意

- SDカードを初期化すると、非表示設定した画像も削除されますのでご注意ください。
- プロテクトと非表示の両方を設定した画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

再生画面設定

MENUボタン → 再生メニュー

1コマ表示モードの標準表示画面で、選んだフォーカスポイントまたはピント合わせに使用したフォーカスポイントを表示するかどうかを設定できます。また、1コマ表示時の画像情報表示に、画像のみ表示、ハイライト表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報表示、統合表示を追加します。

- 追加したい項目を選び、マルチセクターの \odot を押してチェックボックスをオン \square にします。もう一度 \odot を押すと、チェックボックスがオフ \square になります。
- \odot ボタンを押すと、設定を完了します。

画像コピー

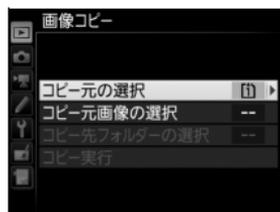
MENUボタン → 再生メニュー

SDカードを2枚使用しているときに、SDカード内の画像をもう一方のSDカードにコピーできます。

コピー元の選択	コピーしたい画像があるスロットを選びます。
コピー元画像の選択	コピーしたい画像を選びます。
コピー先フォルダーの選択	[コピー元の選択] で選ばなかったスロットにあるフォルダーを画像のコピー先として選びます。
コピー実行	コピーを実行します。

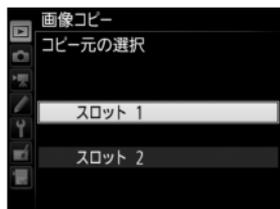
■ 画像のコピー方法

- 1 [コピー元の選択] を選んでマルチセクターの \odot を押す



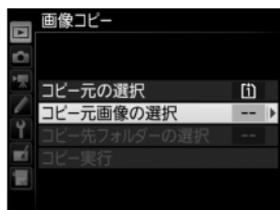
2 コピーしたい画像があるスロットを選ぶ

- コピーしたい画像が入っているカードのスロットを選んで **OK** ボタンを押すと、[画像コピー] 画面に戻ります。



3 [コピー元画像の選択] を選ぶ

- [コピー元画像の選択] を選んでマルチセクターの **▶** を押すと、[コピー元画像の選択] 画面が表示されます。



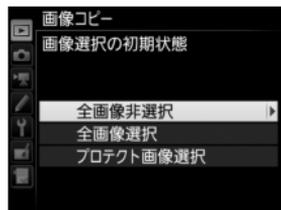
4 コピー元画像があるフォルダーを選ぶ

- コピー元画像のあるフォルダーを選んで **▶** を押すと、[画像選択の初期状態] 画面が表示されます。



5 画像の選択方式を選ぶ

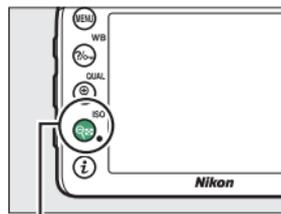
- コピー画像の選び方は、次の3通りがあります。



全画像非選択	フォルダー内全ての画像が選ばれていない状態で表示されます。 • コピーする画像を1枚ずつ自分で選びたい場合に適しています。
全画像選択	フォルダー内の全ての画像が選ばれた状態で表示されます。 • フォルダー内の全画像をコピーしたい場合に適しています。
プロテクト画像選択	フォルダー内のプロテクトされている画像だけが選ばれた状態で表示されます。

6 コピーする画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選び、**Q** (ISO) ボタンを押すと、✓が表示されます。もう一度**Q** (ISO) ボタンを押すと、✓が消えます。
- **Q** (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- コピーしたい全ての画像に✓を入れてから**OK** ボタンを押すと、[画像コピー]画面に戻ります。

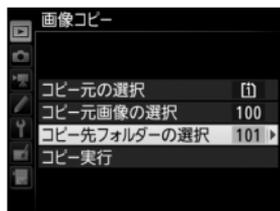


Q (ISO) ボタン



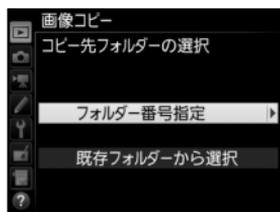
7 [コピー先フォルダーの選択] を選ぶ

- [コピー先フォルダーの選択] を選んで  を押すと、[コピー先フォルダーの選択] 画面が表示されます。



8 コピー先フォルダーの選択方法を選ぶ

- コピー先フォルダーの選択方法を選んで  を押します。



フォルダー番号指定	コピー先のフォルダー番号を入力して指定します (□□31)。指定したフォルダー番号のフォルダーがない場合は、フォルダーを新規作成します。	 The screenshot shows the 'Image Copy' menu with the following options: 'Folder Number Designation', '101', and '100~999'. The 'Folder Number Designation' option is highlighted with a white bar. At the bottom, there are icons for 'Move', 'Settings', and 'Decision'.
既存フォルダーから選択	既存フォルダーの一覧表示から、コピー先フォルダーを選びます。	 The screenshot shows the 'Image Copy' menu with the following options: 'Select from Existing Folders', '10007200', '10107200', '10207200', and '10307200'. The 'Select from Existing Folders' option is highlighted with a white bar.

9 コピー先フォルダーを選ぶ

- それぞれの画面で、フォルダー番号を指定または選んで  ボタンを押すと、コピー先フォルダーを設定して [画像コピー] 画面に戻ります。

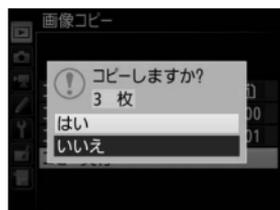
10 [コピー実行] を選ぶ

- [コピー実行] を選んで **OK** ボタンを押すと、コピーの確認画面が表示されます。



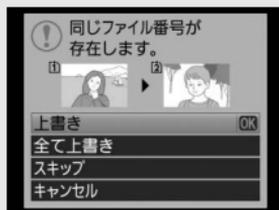
11 [はい] を選ぶ

- [コピーしますか?] というメッセージと、コピーする枚数が表示されます。
- [はい] を選んで **OK** ボタンを押すと、コピーを実行します。
- コピーが終了したら、もう一度 **OK** ボタンを押してコピーを完了します。



✓ 画像コピーについてのご注意

- コピー先SDカードの残量がない場合、コピーできません。
- コピー先フォルダーに同じファイル番号が存在する場合、右のような画面が表示されます。このとき、[上書き] または [全て上書き] を選ぶと、コピー元の画像に上書きされますのでご注意ください。ただし、コピー先の画像にプロテクトまたは非表示が設定されている場合は、上書きできません。[スキップ] を選ぶと、上書きせずに残りの画像のコピーを続けます。[キャンセル] を選ぶと、コピーを中止します。
- プロテクト設定はコピー先の画像に引き継がれます。
- [プリント指定 (DPOF)] (□180) で設定した情報は、コピー先画像には引き継がれません。
- 非表示設定した画像はコピーできません。
- 動画をコピーするときは、バッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いください。



撮影直後の画像確認

MENUボタン → 再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。[しない]を選んだ場合に撮影画像を表示確認するには、ボタンを押してください。

削除後の次再生画像

MENUボタン → 再生メニュー

画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

 後ろのコマ	削除した画像の次に撮影した画像を表示します。 最後の画像を削除した場合は、1つ前の画像を表示します。
 前のコマ	削除した画像の前に撮影した画像を表示します。 最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
 直前コマ送り 方向に従う	<ul style="list-style-type: none">直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、[後ろのコマ]と同じ動作になります。直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、[前のコマ]と同じ動作になります。

縦位置自動回転

MENUボタン → 再生メニュー

縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示します。

縦位置自動回転についてのご注意

- [縦位置自動回転] を [する] に設定しても、セットアップメニューの [縦横位置情報の記録] (□121) を [しない] にして撮影した画像は、全て横位置で表示されます。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、[縦位置自動回転] を [する] に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

スライドショー

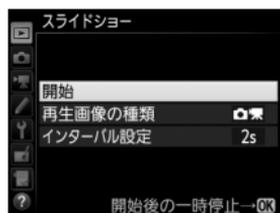
MENUボタン → 再生メニュー

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。[再生フォルダー設定] (□19) で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、[非表示設定] (□20) されている画像は再生されません。

開始	スライドショーを開始します。
再生画像の種類	スライドショーで再生する画像の種類を[静止画と動画]、[静止画のみ]、[動画のみ] から選べます。
インターバル設定	1コマの画像を表示する時間を設定します。

■ スライドショーを再生する

[開始] を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。



1コマ進む/ 戻る		マルチセレクターの⬆️を押すと前の画像が、⬆️を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を 切り換える		⬆️または⬆️を押すと、静止画再生時に画像情報の切り換えができます。画像情報を「画像のみ」に切り換えると、画像だけをスライドショーで再生できます。
一時停止する		スライドショーが一時的に停止します。[再開] を選んでOKボタンを押すと、スライドショーが再開します。
動画再生中に 音量を調節する	🔊 (QUAL) / 🔊 (ISO)	🔊 (QUAL) ボタンを押すと音量が大きくなり、🔊 (ISO) ボタンを押すと小さくなります。

再生メニューに戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る		スライドショーを中止して、1コマ表示モード、サムネイル表示モードまたはカレンダー表示モードに戻ります。
撮影に戻る		液晶モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

再生が終わると、右のような画面が表示されます。[再開]を選んで \odot ボタンを押すと、スライドショーが再開します。[終了]を選んで \odot ボタンを押すと、スライドショーが終了します。



プリント指定 (DPOF)

MENUボタン → 再生メニュー

プリントする画像とプリント枚数をあらかじめ指定できます (□180)。

📷 静止画撮影メニュー： 静止画撮影で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの📷アイコンを選ぶと、静止画撮影メニューが表示されます。



静止画撮影メニュー項目一覧

静止画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📄	メニュー項目	📄
静止画撮影メニューのリセット※	31	色空間	41
記録フォルダー設定※	31	アクティブD-ライティング	41
ファイル名設定	34	HDR (ハイダイナミックレンジ)	42
スロット2の機能	35	ヴィネットコントロール	42
画質モード	36	自動ゆがみ補正	43
画像サイズ	37	長秒時ノイズ低減	44
撮像範囲※	37	高感度ノイズ低減	44
JPEG圧縮	38	ISO感度設定	45
RAW記録	38	リモコンモード設定 (ML-L3) ※	46
ホワイトバランス	39	多重露出※	46
ピクチャーコントロール	40	インターバルタイマー撮影※	47
カスタムピクチャーコントロール※	40		

※ ユーザーセッティングモードU1、U2 (📄112) に機能を登録できません。

📌 設定できない静止画撮影メニュー項目について

撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

静止画撮影メニューのリセット

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

静止画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します。

関連ページ

「静止画撮影メニューの初期設定」(□10)

記録フォルダー設定

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

記録フォルダーの新規作成や既存フォルダーからの選択を行います。
[フォルダー番号指定] では、フォルダーを新規作成できます。[既存フォルダーから選択] では、既存フォルダーの一覧から選べます。

■ フォルダ－番号指定

記録するフォルダ－番号を指定します。フォルダ－が存在しない場合は新しく作成します。

1 [フォルダ－番号指定] を選ぶ

- [フォルダ－番号指定] を選んでマルチセクターの  を押すと、[フォルダ－番号指定] 画面が表示されます。
- [フォルダ－番号指定] 画面の右上には、フォルダ－を作成するスロットが下線で強調されて表示されます。フォルダ－を作成するスロットは、静止画撮影メニュー [スロット2の機能] (□35) の設定によって異なります。

2 フォルダ－番号の桁を選ぶ

-  または  を押して、フォルダ－番号の変更したい桁を選びます。

3 フォルダー番号を変更する

-  または  を押して、フォルダー番号の数値を変更します。

4 フォルダー番号を設定する

-  ボタンを押すと、新規フォルダーを作成してメニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、作成した新規フォルダーに保存します。
- 作成済みのフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク (, , ) が表示されます。
 または  が表示されたフォルダーを選んで  ボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定してメニューに戻ります。
- キャンセルしたい場合は、**MENU** ボタンを押すとメニューに戻ります。

フォルダーマークについて

[フォルダー番号指定] 画面では、フォルダー番号の左に、画像の入っていないフォルダーのときは 、フォルダー内のファイル数が999個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは 、その他のフォルダーのときは  のフォルダーマークが表示されます。  が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

■ 既存フォルダーから選択

既存のフォルダーから選びます。

1 [既存フォルダーから選択] を選ぶ

- [既存フォルダーから選択] を選んでマルチセレクターの▶を押すと、[既存フォルダーから選択] 画面が表示されます。



2 フォルダーを選ぶ

- ◀または▶を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

- OKボタンを押すと、設定が有効になりメニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存します。

✓ フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

フォルダー番号が999に達しているときに、ファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達した場合は、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。ただし、次の場合、SDカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。

- フォルダー番号が999以下で、その内のファイル数が999に達していないフォルダーを記録フォルダーとして選んだ場合
- フォルダー番号が999以下のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合

✓ 大容量のSDカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダーや画像が記録されているSDカードを使用する場合、SDカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。

ファイル名設定

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。[ファイル名設定]では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。ファイル名の入力方法については、下記の「入力画面の操作方法について」をご覧ください。

ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
 - NEF：RAWの場合
 - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
 - MOV：動画の場合
 - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 静止画撮影メニューの[色空間]で[Adobe RGB] (□41)を選んだ場合は_DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

入力画面の操作方法について

ファイル名設定や画像コメントなど、文字を入力するときに表示される画面での操作方は次の通りです。

- 入力エリアに新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターで入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、OKボタンを押します。
- 入力エリアのカーソルを左右に移動するには、ISO (ISO) ボタンを押しながらマルチセレクターの⌚または⌚を押します。
- 入力エリアからあふれた文字は削除されます。
- 1文字削除するには、ISO (ISO) ボタンを押しながらマルチセレクターの⌚または⌚を押して削除する文字の上にカーソルを移動させ、FORMAT ボタンを押します。
- 内容を確定し、文字入力を終了する場合は、QUAL (QUAL) ボタンを押します。
- 文字の入力をキャンセルするには、MENUボタンを押します。

キーボードエリア



入力エリア

スロット2の機能

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

SDカードスロットを両方使用して画像を記録する場合の、スロット2の機能を設定できます。

  順次記録	スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します。
   バックアップ記録	バックアップ用として同じ画像をスロット1、スロット2に記録します。
   RAW+JPEG分割記録	<ul style="list-style-type: none">• [画質モード] が [RAW+FINE]、[RAW+NORMAL]、または [RAW+BASIC] の場合、スロット1にRAW画像、スロット2にJPEG画像を記録します。• その他の画質モードの場合は、同じ画像をスロット1とスロット2の両方に記録します。

画質モード

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

画像を記録するときの画質モードを設定できます。

画質モード	ファイル形式	内容
RAW	NEF	撮像素子の生データ（RAW形式）を記録します。撮影時に設定したホワイトバランスやコントラストなどを、撮影後に変更できます。
FINE	JPEG	画像データを約1/4に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
NORMAL		画像データを約1/8に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
BASIC		画像データを約1/16に圧縮して記録します（サイズ優先時）。
RAW + FINE	NEF + JPEG	RAWとJPEG（FINE）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + NORMAL		RAWとJPEG（NORMAL）の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + BASIC		RAWとJPEG（BASIC）の2種類の画像を同時に記録します。

画像サイズ

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

画像を記録するときの画像サイズ（大きさ）を、[サイズL]、[サイズM]、[サイズS]から設定できます。画像サイズは撮像範囲との組み合わせで変わります。

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合)※
DX (24×16)	L (6000×4000ピクセル)	約50.8×33.9 cm
	M (4496×3000ピクセル)	約38.1×25.4 cm
	S (2992×2000ピクセル)	約25.3×16.9 cm
1.3× (18×12)	L (4800×3200ピクセル)	約40.6×27.1 cm
	M (3600×2400ピクセル)	約30.5×20.3 cm
	S (2400×1600ピクセル)	約20.3×13.5 cm

※ ピクセル数÷出力解像度 (dpi) ×2.54 cmで計算しています。

撮像範囲

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

撮像範囲を[DX (24×16)] (DXフォーマット)または[1.3× (18×12)] (対DX 1.3×クロップ)のいずれかに変更できます。

 DX (24×16)	23.5×15.6 mmの撮像範囲で画像を記録します (DXフォーマット)。
 1.3× (18×12)	18.8×12.5 mmで画像を記録します。撮像範囲が[DX (24×16)]の場合と比べ、記録する撮像範囲が狭くなり、レンズを交換しなくても望遠レンズで撮影したときと同様の効果があります。また、速い連続撮影速度で撮影できるようになります。

JPEG圧縮

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

画質モードがJPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の画像を記録するときの圧縮方式を設定します。

 サイズ優先	ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。
 画質優先	画質の劣化を抑えて圧縮します。画像によってファイルサイズは異なります。

RAW記録

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

RAW画像を記録するときの圧縮方式や記録ビット数を設定します。

記録方式	<ul style="list-style-type: none">• ロスレス圧縮RAW：可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。非圧縮時のファイルサイズに対して、約60～80%に圧縮して記録します。• 圧縮RAW：非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。非圧縮時のファイルサイズに対して、約45～65%に圧縮して記録します。
記録ビットモード	<ul style="list-style-type: none">• 12ビット記録：RAW画像を12ビットで記録します。• 14ビット記録：RAW画像を14ビットで記録します。[12ビット記録]の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは [12ビット記録] よりも大きくなります。

ホワイトバランス

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

光源の種類に合わせてホワイトバランスを設定します。

ホワイトバランス	内容
AUTO オート	AUTO（オート）で十分な効果を得るには、GまたはDタイプレンズをお使いになることをおすすめします。内蔵フラッシュまたは別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
AUTO1 標準	
AUTO2 電球色を残す	
 電球	白熱電球下での撮影に適しています。
 蛍光灯	蛍光灯など、次の7種類の光源を使った撮影に適しています。
ナトリウム灯 混合光	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。
電球色蛍光灯	電球色蛍光灯下での撮影に適しています。
温白色蛍光灯	温白色蛍光灯下での撮影に適しています。
白色蛍光灯	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼白色蛍光灯	昼白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼光色蛍光灯	昼光色蛍光灯下での撮影に適しています。
高色温度の水銀灯	高色温度の水銀灯などを使った撮影に適しています。
 晴天	晴天の屋外での撮影に適しています。
 フラッシュ	内蔵フラッシュや別売のスピードライトを使って撮影する場合に適しています。
 曇天	曇り空の屋外での撮影に適しています。
 晴天日陰	晴天の日陰での撮影に適しています。
 色温度設定	色温度を直接指定できます。
PRE プリセット マニュアル	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、SDカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます。

ピクチャーコントロール

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

記録する画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を、撮影シーンや好みに合わせて選べます。

 SD スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 <ul style="list-style-type: none">ほとんどの撮影状況に適しています。
 NL ニュートラル	被写体の豊かな階調や色合いを自然に再現した画像になります。 <ul style="list-style-type: none">撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。
 VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 <ul style="list-style-type: none">青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
 MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
 PT ポートレート	人物の肌が滑らかで自然な画像になります。
 LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。
 FL フラット	シャドウ部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。 <ul style="list-style-type: none">撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。

カスタムピクチャーコントロール

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

編集と登録	カスタムピクチャーコントロールを登録または編集します。
登録名変更	登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更します。
削除	登録したカスタムピクチャーコントロールを削除します。
メモリーカードを使用	登録したカスタムピクチャーコントロールをSDカードに保存したり、SDカードに保存したカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録できます。

色空間

MENUボタン → 📷 静止画撮影メニュー

記録する画像の色空間を指定します（色空間とは、モニターやプリンターで表現できる色の範囲のことです）。[sRGB] 色空間は、再生やプリントなど、一般的な用途で画像を楽しむのに適しています。[Adobe RGB] 色空間は [sRGB] 色空間に比べて色域が広いいため、商業印刷などの業務用途に適しています。

✔ 色空間についてのご注意

Capture NX-DまたはViewNX-iをお使いになると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。他社製の画像閲覧用または画像編集用ソフトウェアを使うと、正しく色が表示されないことがあります。

📄 Adobe RGB色空間について

適切な色再現には、カラーマネジメント機能に対応したアプリケーション、モニター、プリンターなどの環境が必要です。

アクティブD-ライティング

MENUボタン → 📷 静止画撮影メニュー

白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い画像を撮影できます。

オート	撮影シーンに応じて自動的にアクティブD-ライティングの効果の度合いを設定します。
より強め	効果の度合いは、強い順に [より強め]、[強め]、[標準]、[弱め] から選択できます。
強め	
標準	
弱め	
しない	アクティブD-ライティングを設定しません。

HDR（ハイダイナミックレンジ）

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。

HDRモード	<ul style="list-style-type: none">• する（連続）：解除するまで連続してHDR撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度【HDRモード】を選んで【しない】に設定してください。• する（1回）：1回撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。• しない：HDRモードを解除します。
HDR強度	HDRの強度を設定します。 【オート】 に設定すると、撮影シーンに応じて自動的にHDRの強度を設定します。

ヴィネットコントロール

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ、Eタイプ、またはDタイプレンズを装着しているときのみ機能します（PCレンズを除く）。

<input type="checkbox"/> H 強め	
<input type="checkbox"/> N 標準	効果は、強い順に 【強め】 、 【標準】 、 【弱め】 から選択できます。
<input type="checkbox"/> L 弱め	
<input type="checkbox"/> しない	周辺光量の低下を補正しません。

✔ ヴィネットコントロールについてのご注意

- 次のときはヴィネットコントロールの効果は適用されません。
 - 静止画撮影メニューの [多重露出] (□46) を設定しているとき
 - FXフォーマット対応レンズ装着時
 - 動画撮影時
- JPEG画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなることや補正が不足して暗くなること、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選択することをおすすめします。

自動ゆがみ補正

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

[する] にすると、広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。

- [自動ゆがみ補正] は、Gタイプ、Eタイプ、またはDタイプレンズを装着した場合のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着した場合は機能しません。また、対応レンズ以外を装着した場合については、動作を保証しません。

✔ 自動ゆがみ補正についてのご注意

- [する] の場合、シャッターをきってから、記録が始まるまで時間がかかる場合があります。
- ゆがみを大きく補正するほど、画像周辺部は切り取られます。
- 動画撮影時は、自動ゆがみ補正の効果は適用されません。

✔ 関連ページ

撮影した画像のゆがみを補正する →  [ゆがみ補正] (□153)

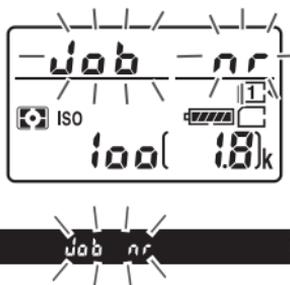
長秒時ノイズ低減

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（むら、輝点）を低減します。

する	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
しない	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、表示パネルとファインダー内表示に「Job nr」が点滅します。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、長秒時ノイズ低減を行わない場合の約2倍になります。



✓ 長秒時ノイズ低減についてのご注意

- 連続撮影速度は遅くなり、連続撮影可能コマ数も少なくなります。
- 処理中に電源をOFFにすると、処理は行われず、長秒時ノイズの低減処理を行う前の画像が保存されます。

高感度ノイズ低減

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

静止画の撮影時に、感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。

強め	全てのISO感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど、効果的です。
標準	
弱め	• ノイズ低減の効果は、強い順に [強め]、[標準]、[弱め] になります。
しない	ノイズが発生しやすい条件で撮影する場合のみ、ノイズ低減処理を行います。ノイズ低減の効果は [弱め] よりもさらに弱くなります。

ISO感度設定

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

静止画撮影時のISO感度に関する設定ができます。

ISO感度	<p>ISO感度はオート、ISO 100 ~ 25600、Hi-BW1 (ISO 51200 相当)、Hi-BW2 (ISO102400相当) から設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Hi-BW1またはHi-BW2は、撮影モードがP、S、A、Mの場合に設定できます。また、Hi-BW1またはHi-BW2に設定すると、静止画撮影メニューの [ピクチャーコントロール] (□40) が [MCモノクローム] に固定されます。
ISO/Hi感度 コマンド ダイヤル変更	<p>[する] を選ぶと、撮影モードがP、S、A、Mの場合に  (ISO) ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してISO感度を100~256000、Hi-BW1、Hi-BW2から選択できます。[しない] を選ぶと、メインコマンドダイヤルではHi-BW1とHi-BW2は選択できません。</p>
感度自動制御	<p>[する] を選んで  ボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。[しない] を選ぶと、[ISO感度] で設定したISO感度に固定されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• [する] を選んだ場合、[制御上限感度] でISO感度が高くなりすぎないように制御上限感度を、[低速限界設定] で撮影モードPまたはAのときの感度自動制御が働き始めるシャッタースピード (1/4000~30秒) を設定できます。

リモコンモード設定 (ML-L3)

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

別売のリモコンML-L3 (□188) を使用するときのリモコンモードを設定します。

 2s 2秒リモコン	ML-L3の送信ボタンを押すと、2秒後にシャッターがきれます。
 瞬時リモコン	ML-L3の送信ボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。
 ミラーアップ リモコン	ML-L3の送信ボタンを押すと、ミラーアップします。もう一度ML-L3の送信ボタンを押すと、撮影できます。撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。
 OFF しない	ML-L3の送信ボタンを押しても、撮影を行いません。

多重露出

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

2~3コマのRAWデータを重ねて写し込み、1つの画像として記録します。

多重露出モード	<ul style="list-style-type: none">● する (連続)：解除するまで連続して多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度 [多重露出モード] を選んで [しない] に設定してください。● する (1回)：多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。● しない：多重露出撮影を解除します。
コマ数	コマ数 (露光回数) を設定します。
自動ゲイン補正	<ul style="list-style-type: none">● する：重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン (出力) を補正します。 - 各コマのゲインは、「1 ÷ 露光回数」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。● しない：ゲインを補正せず、全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。

インターバルタイマー撮影

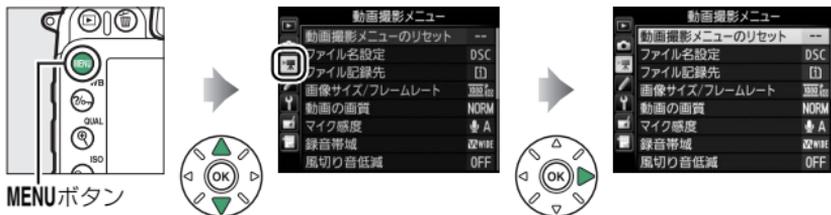
MENUボタン →  静止画撮影メニュー

設定した撮影間隔（インターバル）と撮影回数で自動的に撮影するインターバルタイマー撮影を行えます。インターバルタイマー撮影は、リリースモードを**S**、**CL**、**CH**または**Q**に設定して行ってください。

撮影開始	インターバルタイマー撮影を開始します。[開始方法の設定]で[即時スタート]を選んでいる場合は約3秒後に撮影を開始し、[開始日時設定]を選んでいる場合は設定した日時に撮影を開始します。撮影は、設定した撮影間隔とコマ数で繰り返されます。
開始方法の設定	インターバルタイマー撮影の開始方法を設定します。インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は[即時スタート]を、開始日時を設定する場合は[開始日時設定]を選びます。
撮影間隔	撮影間隔（時、分、秒）を設定します。
撮影回数× 1回のコマ数	撮影回数と1回で撮影するコマ数を設定します。
露出平滑化	[する]を選ぶと、1コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。ただし、撮影モード M で静止画撮影メニュー [ISO感度設定] (□45) の [感度自動制御] が [しない] の場合、露出の平滑化は行いません。

● 動画撮影メニュー： 動画撮影で使える便利な機能

MENU ボタンを押して、タブの●アイコンを選ぶと、動画撮影メニューが表示されます。



動画撮影メニュー項目一覧

動画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	□	メニュー項目	□
動画撮影メニューのリセット*	49	撮像範囲*	52
ファイル名設定	49	ホワイトバランス	53
ファイル記録先	49	ピクチャーコントロール	53
画像サイズ/フレームレート	50	カスタムピクチャー コントロール*	53
動画の画質	51	高感度ノイズ低減	53
マイク感度	51	動画ISO感度設定	54
録音帯域	52	微速度撮影*	55
風切り音低減	52		

* ユーザーセッティングモードU1、U2 (□112) に機能を登録できません。

設定できない動画撮影メニュー項目について

撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選ばれません。

動画撮影メニューのリセット

MENU ボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します。

関連ページ

「動画撮影メニューの初期設定」(□12)

ファイル名設定

MENU ボタン → 動画撮影メニュー

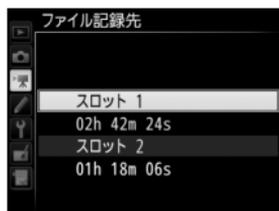
このカメラで撮影した動画のファイル名DSC_nnnn.xxxの「DSC」の3文字を任意に変更できます(□34)。

ファイル記録先

MENU ボタン → 動画撮影メニュー

SDカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定します。

- それぞれのカードで動画を記録できる残り時間が表示されます。
- 選んだファイル記録先のSDカードの残量がなくなると、撮影は自動的に終了します。



画像サイズ/フレームレート

MENUボタン → 動画撮影メニュー

[画像サイズ/フレームレート] では、動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します。[動画の画質] が高画質の場合は、アイコンに★が表示されます。

	解像度（ピクセル）※1	フレームレート※2
	1920×1080	60p
	1920×1080	50p
	1920×1080	30p
	1920×1080	25p
	1920×1080	24p
	1280×720	60p
	1280×720	50p

※1 同じ解像度（ピクセル）を選択しても、[撮像範囲] の設定によって鮮鋭感が異なります。

※2 60p：59.94コマ/秒、50p：50コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、
25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

画像サイズ/フレームレート [1920×1080 60p]、[1920×1080 50p] について

- [画像サイズ/フレームレート] の [1920×1080 60p] または [1920×1080 50p] は、動画撮影メニューの [撮像範囲] (□52) が [DX (24×16)] のときは設定できません。[撮像範囲] を [1.3×(18×12)] に設定してください。
- [画像サイズ/フレームレート] の設定で [1920×1080 60p] または [1920×1080 50p] が選ばれているときに、撮像範囲を [DX (24×16)] に変えると、[1920×1080 60p] のときは [1920×1080 30p] に、[1920×1080 50p] のときは [1920×1080 25p] に、設定がそれぞれ切り替わります。

[画像サイズ/フレームレート] について

[画像サイズ/フレームレート] の設定によっては、撮影した動画のノイズ（ざらつき、むら、輝点）の見え方が異なります。

動画の画質

MENU ボタン → 動画撮影メニュー

動画の画質を高画質と標準から選べます。

マイク感度

MENU ボタン → 動画撮影メニュー

内蔵マイクまたは別売のステレオマイクロホン (□189) の感度の程度を設定します。

マイク感度 オート	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
マイク感度 マニュアル	マイク感度を手動調整します。[1] ~ [20] の調整ができます。数字が大きいほど感度が高く、小さいほど低くなります。
録音しない	音は記録しません。

 **音が記録されていない動画の表示について**
[マイク感度] を [録音しない] にして撮影した動画の場合、再生時に  (音なしマーク) が表示されます。



録音帯域

MENUボタン → 映画 動画撮影メニュー

内蔵マイクまたは別売のステレオマイクロホン (□189) の周波数特性を設定します。

 WIDE 広帯域	低音域から高音域まで録音します。楽器演奏や街のざわめきの録音など、幅広いシーンに適しています。
 VOICE 音声帯域	主に人の声を録音したいときに適しています。

風切り音低減

MENUボタン → 映画 動画撮影メニュー

[する] を選ぶと、ローカットフィルター機能により、内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録できます。ただし、風切り音以外の音も聞こえにくくなる場合があります。

- 別売のステレオマイクロホンをお使いの場合は、カメラ側で [風切り音低減] を [する] に設定しても風切り音は低減されません。ステレオマイクロホン側で設定してください。

撮像範囲

MENUボタン → 映画 動画撮影メニュー

撮像範囲を設定できます (□37)。

ホワイトバランス

MENU ボタン → 動画撮影メニュー

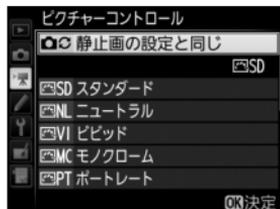
動画撮影時のホワイトバランス (□39) を設定できます。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります。



ピクチャーコントロール

MENU ボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影時のピクチャーコントロール (□40) を設定できます。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります。



カスタムピクチャーコントロール

MENU ボタン → 動画撮影メニュー

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます (□40)。

高感度ノイズ低減

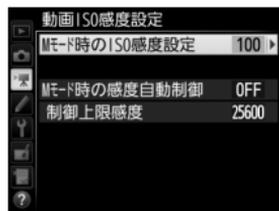
MENU ボタン → 動画撮影メニュー

動画の撮影時に、ISO感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します (□44)。

動画ISO感度設定

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影時のISO感度に関する設定ができます。



Mモード時のISO感度設定	撮影モードMでの動画撮影時のISO感度（100～25600）を設定できます。
Mモード時の感度自動制御	[する] を選ぶと、撮影モードがMのときもカメラが自動的に動画撮影時のISO感度を変更します。[しない] を選ぶと、撮影モードがMのときに、[Mモード時のISO感度設定] で設定したISO感度に固定されます。 <ul style="list-style-type: none">撮影モードがM以外の場合は常に感度自動制御が動作します。
制御上限感度	<ul style="list-style-type: none">感度自動制御するとき ISO 感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～25600）を設定できます。撮影モードがP、SまたはAの場合と、撮影モードMで [Mモード時の感度自動制御] が [する] の場合は、ここで設定した感度が自動制御の上限になります。

感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が上がると、被写体によっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生することがあります。
- ISO感度が上がると、ピントが合いにくくなることがあります。
- 上記の現象が発生する場合は、[動画ISO感度設定] の [制御上限感度] を下げて撮影してください。

微速度撮影

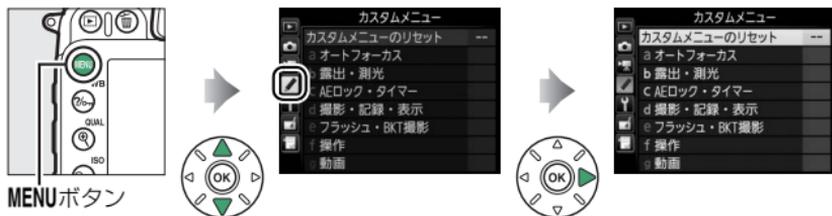
MENU ボタン → 動画撮影メニュー

設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。撮影する静止画は、動画と同じ撮像範囲 (□52) で記録されます。また、記録される動画のフレームレートは動画撮影メニューの [画像サイズ/フレームレート] (□50) で設定できます。

撮影開始	微速度撮影を開始します。約3秒後に撮影を開始し、設定した [撮影時間] 内に設定した [撮影間隔] で撮影を繰り返します。
撮影間隔	撮影間隔 (分、秒) を設定します。
撮影時間	撮影時間 (時、分) を設定します。
露出平滑化	[する] を選ぶと、明るさの変化が滑らかになり、より自然な動画を記録します。ただし、撮影モードMで静止画撮影メニュー [ISO感度設定] (□45) の [感度自動制御] が [しない] の場合、露出の平滑化は行いません。

カスタムメニュー： 撮影に関するさらに詳細な設定

MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。



MENU ボタン

カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。

<第1階層>



<第2階層>



カスタムメニュー項目一覧

カスタムメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	□
カスタムメニューのリセット	58
a オートフォーカス	
a1 AF-Cモード時の優先	59
a2 AF-Sモード時の優先	59
a3 AFロックオン	60
a4 半押しAFレンズ駆動	60
a5 フォーカスポイント表示	61
a6 フォーカスポイント循環 選択	62
a7 AF点数切り換え	62
a8 縦/横位置フォーカスポイ ント切換	63
a9 内蔵AF補助光の照射設定	64
b 露出・測光	
b1 ISO感度設定ステップ幅	65
b2 露出設定ステップ幅	65
b3 露出補正簡易設定	66
b4 中央部重点測光範囲	67
b5 基準露出レベルの調節	67
c AEロック・タイマー	
c1 半押しAEロック	68
c2 半押しタイマー	68
c3 セルフタイマー	68
c4 モニターのパワーオフ 時間	69
c5 リモコン待機時間(ML-L3)	69

メニュー項目	□
d 撮影・記録・表示	
d1 電子音設定	70
d2 低速連続撮影	71
d3 連続撮影コマ数	71
d4 露出ディレーモード	72
d5 フラッシュ使用推奨表示	72
d6 連番モード	72
d7 ファインダー内格子線 表示	73
d8 ISO感度の簡易設定	73
d9 インフォ画面の表示設定	74
d10 イルミネーター点灯	74
d11 MB-D15電池設定	75
d12 電池の使用順序	77
e フラッシュ・BKT撮影	
e1 フラッシュ撮影同調速度	78
e2 フラッシュ時シャッター スピード制限	80
e3 内蔵フラッシュ発光	80
e4 フラッシュ使用時の露出 補正	87
e5 モデリング発光	88
e6 オートブラケティングの セット	88
e7 BKTの順序	89

メニュー項目	📖
f 操作	
f1 OKボタンの機能	90
f2 Fnボタンの機能	91
f3 プレビューボタンの機能	96
f4 AE/AFロックボタンの機能	96
f5 コマンドダイヤルの設定	98
f6 ボタンのホールド設定	101
f7 カードなし時リリース	102
f8 インジケータの+/-方向	102

メニュー項目	📖
f9 動画撮影ボタンの機能	103
f10 MB-D15の Fn ボタンの機能	104
f11 リモコン (WR) のFnボタンの機能	105
g 動画	
g1 Fnボタンの機能	107
g2 プレビューボタンの機能	108
g3 AE/AFロックボタンの機能	108
g4 シャッターボタンの機能	109

※ 設定内容が初期設定と異なる場合、変更されたメニュー項目の左上にアスタリスク（*）を表示します。

設定できないカスタムメニュー項目について

撮影モードやカメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。

関連ページ

「カスタムメニューの初期設定」(📖13)

カスタムメニューのリセット

MENU ボタン →  カスタムメニュー

カスタムメニューをリセットして初期設定に戻します。

a : オートフォーカス

a1 : AF-Cモード時の優先

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のときにシャッターボタンを全押しした場合の動作を設定できます。

 リリース	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきるできません。

- AFモードが**AF-C**のときは、[**AF-Cモード時の優先**] の設定にかかわらず、ピント表示 (●) が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

a2 : AF-Sモード時の優先

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-S**のときにシャッターボタンを全押しした場合の動作を設定できます。

 リリース	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきるできません。

- AFモードが**AF-S**のときは、[**AF-Sモード時の優先**] の設定にかかわらず、ピント表示 (●) が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、シャッターをきるまでフォーカスロックが行われます。

a3 : AFロックオン

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のときや、**AF-A**に設定していて自動的に**AF-C**に切り替わったときに、被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合のピント合わせの動作を設定できます。

AF  5 (強め)	被写体との距離が瞬時に大きく変わったとき、一定時間経過してから被写体を追従するピント合わせを行います。被写体とカメラの間に障害物が横切るといった撮影など、意図に反して障害物にピント合わせを行うことを防止します。 • 被写体との距離が瞬時に大きく変わってから、追従するピント合わせを開始するまでの時間が長い順に、[5 (強め)]、[4]、[3 (標準)]、[2]、[1 (弱め)] になります。
AF  4	
AF  3 (標準)	
AF  2	
AF  1 (弱め)	
しない	被写体との距離が瞬時に大きく変わったときは、すぐに追従するようにピント合わせを行います。距離の異なる複数の被写体を次々と撮影するようなときに便利です。

- AFエリアモードが3D-トラッキングまたはオートエリアAFの場合は、[2]、[1 (弱め)]、[しない] に設定していても、[3 (標準)] を選んだときと同じ動作になります。

a4 : 半押しAFレンズ駆動

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときの、ピント合わせの動作を設定できます。[しない] を選んだ場合は、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。ピントを合わせるには、カスタムメニューでAF-ON機能を割り当てたボタンを使います (□91、96、104、107)。

a5：フォーカスポイント表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内のフォーカスポイントの表示に関する設定ができます。

■ フォーカスポイント照明

ファインダー内のフォーカスポイントの照明方法を設定できます。

オート	被写体または背景が暗いときは、自動的にフォーカスポイントを赤色に照明します。
する	被写体または背景の明るさにかかわらず常にフォーカスポイントが赤色に照明します。背景が明るいときは、照明が見えづらい場合があります。
しない	フォーカスポイントを照明しません。

■ マニュアルフォーカス時の表示

[する] に設定すると、マニュアルフォーカスでの撮影時にフォーカスポイントが常に点灯します。[しない] に設定すると、フォーカスポイントを移動したときのみ一瞬点灯します。

a6：フォーカスポイント循環選択

MENUボタン →  カスタムメニュー

フォーカスポイントをマルチセレクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。

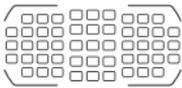
[す] を選んだ場合、一番端のフォーカスポイント (①) を選んでいるときに、さらにマルチセレクターを同方向 (右図の場合は ) に押すと、反対側の端のフォーカスポイント (②) に移動します。



a7：AF点数切り換え

MENUボタン →  カスタムメニュー

手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

AF51 51点	51点全てのフォーカスポイントを選べます。	
AF11 11点	11点のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置を素早く動かしたいときに便利です。	

a8：縦/横位置フォーカスポイント切換

MENUボタン →  カスタムメニュー

カメラを正位置（横位置）にしたとき、時計回りの縦位置と反時計回りの縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントを設定できます。

- [しない] に設定した場合、横位置と縦位置で同じフォーカスポイントを使います。



縦位置

反時計回りに90°回転



横位置



縦位置

時計回りに90°回転

- [する] に設定すると、横位置と縦位置で個別にフォーカスポイントを設定できます。



縦位置

反時計回りに90°回転



横位置



縦位置

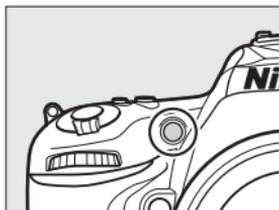
時計回りに90°回転

a9：内蔵AF補助光の照射設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

被写体が暗いときなど、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのためにAF補助光を自動的に照射します。

暗い場所でもAF補助光を自動的に照射させないように設定できます。



する	ファインダー撮影時に、オートフォーカスでのピント合わせの際に、次の条件が全て満たされた場合に、自動的にAF補助光を照射します。 <ul style="list-style-type: none">• 被写体が暗い場合• AFモードがAF-S、またはAF-Aで自動的にAF-Sが選ばれた場合• オートエリアAF以外のAFエリアモードで、中央のフォーカスポイントを選択したとき、またはオートエリアAFのとき
しない	AF補助光を照射しません。被写体が暗いときなどは、オートフォーカスでのピント合わせはできなくなる場合があります。

AF補助光について

- AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5～3mです。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。

b : 露出・測光

b1 : ISO感度設定ステップ幅

MENUボタン →  カスタムメニュー

ISO感度のステップ幅を設定できます。ISO感度のステップ幅を変更したとき、設定されているISO感度が変更後のステップ幅に存在しない場合は、最も近い値に変更されます。

b2 : 露出設定ステップ幅

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッタースピード、絞り値、オートブラケティング補正值、露出補正值、および調光補正值のステップ幅を設定できます。

b3：露出補正簡易設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルだけで露出補正できるように設定を変更できます。

露出補正簡易設定を「**する（自動リセット）**」または「**する**」に設定すると、露出インジケータの「0」が点滅します。

する (自動リセット)	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 <ul style="list-style-type: none">コマンドダイヤルだけを使って設定した露出補正値は、電源をOFFにするか、半押しタイマーがオフになると、リセットされます。
する	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 <ul style="list-style-type: none">電源をOFFにしても、半押しタイマーがオフになっても、設定した露出補正値はリセットされません。
しない	<input checked="" type="checkbox"/> ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

b3【露出補正簡易設定】とf5【メインとサブの入れ換え】の併用について

【露出補正簡易設定】とカスタムメニューf5【コマンドダイヤルの設定】(□98)の【メインとサブの入れ換え】との併用により、次の表で記載しているコマンドダイヤルで露出補正ができます。

		カスタムメニュー f5→メインとサブの入れ換え	
		しない	する
撮影モード	P	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	S	サブコマンドダイヤル	メインコマンドダイヤル
	A	メインコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	M	機能しません	

 b3【露出補正簡易設定】とd8【ISO感度の簡易設定】について
カスタムメニュー b3【露出補正簡易設定】の「**する（自動リセット）**」と「**する**」は、d8【ISO感度の簡易設定】(□73)とは併用できません。メッセージが表示され、先に設定していた内容が「**しない**」にリセットされます。

b4：中央部重点測光範囲

MENUボタン →  カスタムメニュー

中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光の範囲を変更できます。

- 非CPUレンズを装着しているときの測光範囲は、 $\phi 8\text{mm}$ 相当になります。

b5：基準露出レベルの調節

MENUボタン →  カスタムメニュー

適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（+側）または暗め（-側）に調節できます。1/6段ステップ幅で ± 1 段の範囲で設定できます。初期設定は0です。

基準露出レベルの調節について

- カスタムメニューb5 [基準露出レベルの調節] を0以外に設定しても、 マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニュー b5の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ツーボタンリセットでは解除できません。

c : AEロック・タイマー

c1 : 半押しAEロック

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行うかどうかを設定できます。

c2 : 半押しタイマー

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで一定時間が過ぎると、待機状態に入ります。この待機状態になるまでの時間を変更できます。

- 待機状態になると、表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示とファインダー内の表示が消灯します。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

c3 : セルフタイマー

MENUボタン →  カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。

時間	シャッターがきれるまでの時間を選べます。
撮影コマ数	マルチセレクターの  または  を押して、1コマ～9コマの間で設定できます。
連続撮影間隔	[撮影コマ数] を2コマ以上に設定した場合に、連続撮影するときの撮影間隔を選べます。

c4：モニターのパワーオフ時間

MENUボタン →  カスタムメニュー

液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。

- [画像の再生]、[メニュー表示]、[インフォ画面表示]、[撮影直後の画像確認]、[ライブビュー表示] で液晶モニターが自動的に消灯するまでの時間を個別に設定できます。
- 初期設定は、[画像の再生] と [インフォ画面表示] は10秒、[メニュー表示] は1分、[撮影直後の画像確認] は4秒、[ライブビュー表示] は10分です。
- 液晶モニターの表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

c5：リモコン待機時間 (ML-L3)

MENUボタン →  カスタムメニュー

リモコンモード (□46) に設定してから、カメラがリモコンからの信号を待ち受ける時間を設定します。

- リモコン待機時間を長くすると、カメラのバッテリーの消耗が早くなります。
- リモコンモードにしてから、リモコン撮影をしないままで受信待機時間が過ぎると、リモコンモードが解除され、静止画撮影メニュー [リモコンモード設定 (ML-L3)] が [しない] になります。

d1：電子音設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

電子音の音の高さや音量を設定できます。

■ 音量

電子音の音量を設定できます。

- [電子音なし] を選ぶと、電子音は鳴りません。
- [音量] を [電子音なし] 以外に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。
 - セルフタイマー作動中
 - 2秒リモコン撮影 (□46) の作動中
 - 瞬時リモコン撮影またはミラーアップリモコン撮影の完了時
 - 微速度撮影終了時 (□55)
 - オートフォーカスのピントが合ったとき (ただし、AFモードが**AF-C** のとき、または**AF-A** で自動的に**AF-C** が選ばれた場合、電子音は鳴りません)
 - 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとしたとき

■ 音の高さ

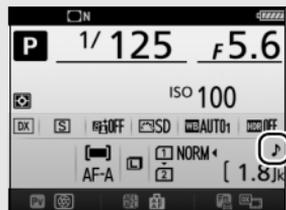
電子音の音の高さを [高音] と [低音] から選べます。

✔ ライブビュー時にライブビューセクターが噪のときおよび静音撮影時の電子音について

ライブビュー時にライブビューセクターが噪のときおよびリリースモードがQの場合は、「電子音設定」の設定にかかわらず、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

✔ 電子音設定時の表示について

「音量」が「電子音なし」以外の場合はインフォ画面に♪（電子音あり）マークが表示されます。



d2：低速連続撮影

MENUボタン → カスタムメニュー

リリースモードがCLのときの連続撮影速度を「6コマ/秒」～「1コマ/秒」の間で設定できます。

- 「6コマ/秒」、 「5コマ/秒」、 「4コマ/秒」 に設定していても、ライブビュー撮影時の連続撮影速度は最高3.7コマ/秒になります。

d3：連続撮影コマ数

MENUボタン → カスタムメニュー

連続撮影を最大何コマまで継続できるかを設定できます。マルチセクターの \odot または \ominus を押して、1コマ～100コマの間で設定します。

- シャッタースピードが4秒以上の場合は、連続撮影のコマ数は制限されません。

✔ 連続撮影コマ数について

カスタムメニュー d3 「連続撮影コマ数」で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって制限があります。このコマ数を超えると「 $\text{r}00$ 」と表示され、連続撮影速度は低下します。

d4：露出ディレーモード

MENUボタン →  カスタムメニュー

顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に抑えるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約1～3秒後にシャッターがきれるように変更できます。

d5：フラッシュ使用推奨表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

被写体が暗いときや逆光など、フラッシュが必要な撮影条件でフラッシュを使わずに撮影しようとした場合に、（レディーライト）が点滅してフラッシュの使用をおすすめします。[しない] を選ぶと、撮影状況にかかわらず、は点滅しません。

d6：連番モード

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	SDカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	SDカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 <ul style="list-style-type: none">連番モードを [する] から [しない] に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に [する] に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。
リセット	[する] を設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きます。

✔ ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が999に達しているときにファイル番号が9999に達するか、このフォルダー内のファイル数が999個に達すると、それ以上フォルダーを作成できず、シャッターがきれなくなります。この場合は、カスタムメニューd6 [連番モード] を [リセット] した後、SDカードを初期化するか、交換してください。

✔ フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に999個のファイルが記録された場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号+1という番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 撮影中にファイル番号が9999となった場合、SDカード内に存在する最大フォルダー番号+1の番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。

d7：ファインダー内格子線表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

撮像範囲が [DX (24×16)] (□37) のときに、ファインダー内に構図用格子線を表示するかしないかを設定できます。

d8：ISO感度の簡易設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

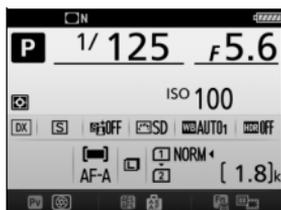
[する] を選ぶと、コマンドダイヤルの操作だけでISO感度を変更できます。

する	撮影モードが P 、 S 、 A のときのみコマンドダイヤルでISO感度を変更できます。 <ul style="list-style-type: none">• 撮影モードP、S：サブコマンドダイヤルでISO感度を変更します。• 撮影モードA：メインコマンドダイヤルでISO感度を変更します。
しない	 (ISO) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回してISO感度を設定します。

d9：インフォ画面の表示設定

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

明るい場所や暗い場所で液晶モニターが見つらいときにインフォ画面の見え方を設定できます。



黒文字表示



白文字表示

AUTO 自動	インフォ画面の表示を見やすくするように、カメラが自動的に白黒反転します。明るい場所では黒文字表示に、暗い場所では明るさを抑えた白文字表示に切り替わります。	
手動	B 黒文字	明るい場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、文字を黒く表示します。
	W 白文字	暗い場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、文字を白く表示します。

d10：イルミネーター点灯

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

[しない] に設定すると、電源スイッチを \bullet に合わせたときだけ表示パネルのイルミネーター（照明）が点灯します。[する] に設定すると、電源スイッチを \bullet に合わせなくても、半押しタイマー（ \square 68）の作動中には表示パネルのイルミネーター（照明）を常に点灯します。ただし、バッテリーの消耗は早くなります。

d11 : MB-D15電池設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D15に単3形電池を入れて使用するとき、カメラが電池残量をより正確に表示できるように、電池の種類を指定してください。ただし、Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15を使用する場合は、設定する必要がありません。

MB-D15で使える市販の単3形電池は、アルカリ電池、ニッケル水素充電電池、リチウム電池です。次の表に合わせて正しく設定してください。

- 電池設定を正しく設定していない場合、カメラが正常に作動しないおそれがあります。

	対応する電池
 L R6 アルカリ単3形電池	アルカリ単3形電池
 Ni-MH Ni-MH単3形充電電池	ニッケル水素単3形充電電池
 FR6 リチウム単3形電池	リチウム単3形電池

単3形電池の使用について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D15に単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電電池、リチウム電池）を電源として使用するときは、次のことにご注意ください。

- アルカリ電池を電源として使用した場合、他の電源を使用した場合と比較して撮影できるコマ数が極端に減少します。通常の撮影では他の電源を使用し、アルカリ電池は緊急用として使用してください。また、低温時は使用しないでください。
- 電池のメーカーや銘柄によっては、撮影できるコマ数が少なかったり、使用できない場合があります。
- 周囲の温度が20℃よりも低い環境では、撮影できるコマ数が極端に減少する場合があります。
- 電池の使用推奨期間内であっても、保管状態によっては撮影できるコマ数が減少したり、使用できない場合があります。
- 単3形電池を使っているときは、表示パネルとファインダー内の電池残量表示は次のようになります。

表示パネル	ファインダー	意味
	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
		バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
 (点滅)	 (点滅)	撮影できません。バッテリーを交換してください。

d12：電池の使用順序

MENUボタン →  カスタムメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D15装着時に、MB-D15に入っている電池から使用するか、カメラに入っているバッテリーから使用するかを設定します。

マルチパワーバッテリーパックMB-D15について

- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D15をカメラに装着すると、インフォ画面のMB-D15のバッテリー種別表示は、使用しているバッテリーにより、次のように変わります。



MB-D15の バッテリー種別表示	MB-D15で使用しているバッテリー
	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15
	アルカリ単3形電池
	ニッケル水素単3形充電電池
	リチウム単3形電池

- 別売のパワーコネクターとACアダプターをMB-D15に接続している場合は、カスタムメニューd12 [電池の使用順序] の設定にかかわらず、常にACアダプターを使用します。

e : フラッシュ・BKT撮影

e1 : フラッシュ撮影同調速度

MENUボタン →  カスタムメニュー

フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

1/320秒 (オートFP)	フラッシュ撮影時の同調速度を1/320秒または1/250秒に設定します。別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト使用時は1/320秒または1/250秒より速いシャッタースピードでは自動的にFP発光に切り替わります。*
1/250秒 (オートFP)	
1/250秒	
1/200秒	
1/160秒	
1/125秒	フラッシュ撮影時の同調速度を、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。
1/100秒	
1/80秒	
1/60秒	

※ 撮影モード**P**または**A**で、表示パネルまたはファインダー内表示のシャッタースピードがカスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した同調速度を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが同調速度よりわずかでも高速側であれば、FP発光に切り替わります。

シャッタースピードの同調速度を固定するには

撮影モード**S**または**M**のときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した値に固定するには、最も低速側 (30秒または-) の次の位置を選んでください。表示パネルとファインダー内表示に**X** (フラッシュシンクロマーク) と設定した同調速度が表示されます。

■ オートFPハイスピードシンクロについて

カスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] (□78) を [1/320秒 (オートFP)] または [1/250秒 (オートFP)] に設定すると、内蔵フラッシュや別売のスピードライトを使って1/320秒または1/250秒までフラッシュ同調ができます。また、別売のオートFP ハイスピードシンクロ対応スピードライト使用時にシャッタースピードが1/320秒または1/250秒より速くなると、自動的にFP発光に切り替わります。

シャッター スピード	1/320秒 (オートFP)		1/250秒 (オートFP)		1/250秒	
	内蔵 フラッシュ	スピード ライト (別売)	内蔵 フラッシュ	スピード ライト (別売)	内蔵 フラッシュ	スピード ライト (別売)
1/8000~ 1/320秒 より高速側	—	FP発光	—	FP発光	—	—
1/320~ 1/250秒 より高速側	フラッシュ 同調 *	フラッシュ 同調 *	—	FP発光	—	—
1/250~ 30秒	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調	フラッシュ 同調

※ ガイドナンバーは、シャッタースピードが速くなるほど小さくなりますが、FP発光時よりは大きくなります。

FP発光について

フラッシュ撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます。[1/320秒 (オートFP)] や [1/250秒 (オートFP)] に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。

- FP 発光に切り替わると、インフォ画面のフラッシュモードに「FP」が表示されます。

e2：フラッシュ時シャッタースピード制限

MENUボタン → カスタムメニュー

撮影モードが**P**または**A**の場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を設定できます。

- スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や撮影モードが**S**または**M**の場合には、カスタムメニューe2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] の設定にかかわらず、シャッタースピードの低速側の制限は30秒になります。

e3：内蔵フラッシュ発光

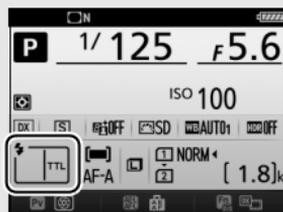
MENUボタン → カスタムメニュー

内蔵フラッシュの発光方式を設定できます。

TTL ↓ TTLモード	内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。
M ↓ マニュアル発光モード	指定した発光量で内蔵フラッシュが発光します (□81)。モニター発光は行いません。
RPT ↓ リピーティング発光モード	1回の露光中に、内蔵フラッシュを繰り返し連続発光させて、被写体の連続的な動きを分解写真のように写し込みます (□81)。
CMD ↓ コマンダーモード	内蔵フラッシュを、カメラから離れた別売のスピードライトで構成される補助灯 (リモート) グループをワイヤレス制御するためのコマンダーとして利用します (□82)。

内蔵フラッシュの発光方式について

内蔵フラッシュの発光方式は、インフォ画面のフラッシュモードで確認できます。



別売スピードライトSB-500、SB-400またはSB-300を装着している場合について

別売スピードライトSB-500、SB-400、SB-300を装着してスピードライトの電源をONにすると、カスタムメニュー e3 [内蔵フラッシュ発光] がe3 [外付けフラッシュ発光] に変わります。SB-500装着時はスピードライトの発光方式を [TTLモード]、[マニュアル発光モード] または [コマンダーモード] に設定できます。SB-400またはSB-300装着時は [TTLモード] または [マニュアル発光モード] に設定できます。

■ マニュアル発光モード

発光量を選べます。

- 「Full」（フル発光）に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約12（ISO 100・m、20℃）となります。

■ リピーティング発光モード

[リピーティング発光モード] を選ぶと、右のような画面が表示されます。



マルチセレクターの または で [発光量]、[回数]、[間隔] の各設定項目を切り換え、 または で数値を設定してください。

発光量	1回あたりの発光量を設定します。発光量は、1/4～1/128で設定できます。
回数	1回の露光中に発光する回数を設定します。設定できる発光回数は、発光量によって変わります。
間隔	発光間隔を、Hz(ヘルツ;1秒あたりの発光回数)単位で設定します。

リピーティング発光モードの発光回数について

- [回数] で設定する数値は、最大の発光回数です。シャッタースピードを高速にしたり、発光間隔を長くすると、実際の発光回数は設定よりも少なくなることがあります。
- 設定できる発光回数は、[発光量] によって次のように変わります。

発光量	回数													
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	25	30	35
1/4	○													
1/8	○	○	○	○										
1/16	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
1/32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
1/64	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
1/128	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

コマンダーモード

内蔵フラッシュを主灯（マスターフラッシュ）として、カメラから離れた別売のスピードライトで構成される補助灯（リモート）グループをワイヤレス（アドバンストワイヤレスライティング）で制御するためのモードです。

内蔵フラッシュや2つの補助灯グループのスピードライトに、それぞれ発光モードと調光補正值（または発光量）を設定できます。

[コマンダーモード] を選ぶと、右のような画面が表示されます。



マルチセクターの④または⑤で項目を切り換え、⑥または⑦で発光モードや補正值（または発光量）を設定してください。

	発光モード	内容
内蔵フラッシュ	TTL	内蔵フラッシュは、i-TTL調光を行います。右側の【補正量】欄で、内蔵フラッシュの調光補正值を設定（1/3 段ステップで±3 段）します。
	M	内蔵フラッシュはマニュアル調光を行います。右側の【補正量】欄で、内蔵フラッシュの発光量を選びます。
	--	内蔵フラッシュは発光せず、補助灯だけが発光します。ただし、撮影時にモニター発光を行えるよう、  ボタンを押して内蔵フラッシュを上げておいてください。
Aグループ	TTL	Aグループの全ての補助灯が、i-TTL調光を行います。右側の【補正量】欄で、Aグループの補助灯の調光補正值を設定（1/3 段ステップで±3 段）します。
	AA*	Aグループの全ての補助灯が、絞り連動外部自動調光を行います。右側の【補正量】欄で、Aグループの補助灯の調光補正值を設定（1/3 段ステップで±3 段）します。
	M	Aグループの全ての補助灯が、マニュアル調光を行います。右側の【補正量】欄で、Aグループの補助灯の発光量を選びます。
	--	Aグループの補助灯は発光しません。
Bグループ	Bグループの補助灯について、Aグループと同様の設定を行います。	
チャンネル	補助灯と通信を行うためのチャンネルを、1～4のいずれかに設定します。全ての補助灯のチャンネルを、ここで設定したチャンネルに合わせる必要があります。	

※ 絞り連動外部自動調光対応スピードライトの場合のみ発光します。

別売スピードライトSB-500について

別売スピードライトSB-500の装着時は、【コマンダーモード】内の【内蔵フラッシュ】が【外付けフラッシュ】に変わります。

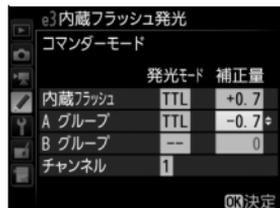
コマンドモードでの撮影手順は、次の通りです。

1 右の画面で、[内蔵フラッシュ] の [発光モード] と [補正量] を設定する

- 発光モードを [-] (非発光) にした場合は、[補正量] が設定できません。



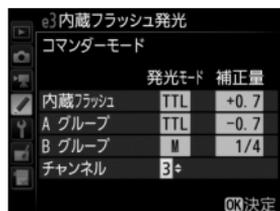
2 同様に [A グループ] の [発光モード] と [補正量] を設定する



3 Bグループの補助灯を使用する場合は、同様に [Bグループ] の [発光モード] と [補正量] を設定する



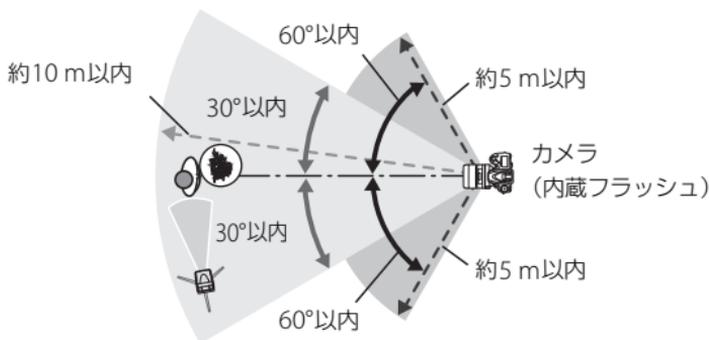
4 [チャンネル] を設定する



5 OK ボタンを押して設定を有効にする

6 構図を決め、カメラと補助灯（別売のスピードライト）を配置する

- 補助灯は下図の範囲内に配置してください。



補助灯のワイヤレスリモートセンサー窓をカメラ側に向けて設定してください。

- 周辺環境により、上図内の距離は多少変化します。

7 使用する全ての補助灯の電源をONにし、グループとチャンネルを設定する

- 補助灯の設定方法については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- 補助灯のチャンネルは、必ずカメラで設定したものと同一チャンネル（1～4）に設定してください。
- SB-500を補助灯として使用する場合は、チャンネルを[3]に設定してください。

8 (閃) ボタンを押して、内蔵フラッシュを上げる

- 内蔵フラッシュの[発光モード]を[--]に設定した場合も、撮影時にモニター発光を行えるよう、内蔵フラッシュを上げておいてください。

9 カメラのファインダー内表示と全ての補助灯でレディーライトが点灯していることを確認し、ピントを合わせて撮影する

- コマンダーモードはFVロックと組み合わせて撮影することもできます。

内蔵フラッシュを発光させない場合の表示について

手順1で [内蔵フラッシュ] の [発光モード] を [-] にして内蔵フラッシュを上げると、インフォ画面のフラッシュモード表示から  が消灯します。

コマンダーモード時の調光補正と表示について

- コマンダーモード時に、 () ボタンとサブコマンドダイヤルで調光補正を行うと、[内蔵フラッシュ]、[Aグループ]、[Bグループ] のそれぞれの [補正量] に加算されます。
- [内蔵フラッシュ]、[Aグループ]、[Bグループ] のいずれかを [TTL] または [AA] にして補正値を0以外に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に  が点灯します。
- [内蔵フラッシュ] を [M] に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に  が点滅します。

✓ コマンダーモードについてのご注意

- 補助灯は、内蔵フラッシュの光がセンサー窓に入る位置（通常はカメラより被写体に近い位置）に置きます。特に、手持ちで撮影するときは、内蔵フラッシュの光が確実にセンサー窓に入るように、補助灯はカメラより前に構えてください。
- 補助灯の直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（[TTL] 設定時）や他の補助灯の外部自動調光用受光窓（[AA] 設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- 同時に使用できる補助灯の台数に制限はありません。しかし、センサーに他の補助灯の強い光が入ると、正常動作できない場合があるため、実用上は3台程度が限度です。
- [内蔵フラッシュ] の [発光モード] を [-] にした場合でも、補助灯の発光タイミングを合わせるため、モニター発光とは別に、撮影中に内蔵フラッシュが少量発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）で撮影するか、別売の内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。少量発光の光量が大きくなる後幕シンクロ撮影では、内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRをお使いください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

e4：フラッシュ使用時の露出補正

MENUボタン →  カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。

  全体を補正	露出と調光量を同時に補正します。全体の露出が変化します。
 背景のみ補正	背景の露出だけを補正します。

e5 : モデリング発光

MENU ボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影で内蔵フラッシュや別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時にカメラのPv ボタンを押したときに、陰影の状況を把握するためのモデリング発光を行わないように設定できます。

e6 : オートブラケティングのセット

MENU ボタン →  カスタムメニュー

オートブラケティングの種類を設定できます。

 AE・フラッシュ ブラケティング	露出値 (AE) とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
AE AEブラケティング	露出値を変えながら撮影します。
 フラッシュ ブラケティング	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
WB WBブラケティング	1回の撮影でホワイトバランス (WB) を変えた画像を記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスを決めにくいときや、微妙な白の色みを好みで選びたいときなどに便利です。RAW画像を含む画質モードを設定したときは、WBブラケティングは使用できません。
 ADLブラケティング	アクティブD-ライティング (□41) の効果の度合いを変えながら撮影します。

e7 : BKTの順序

MENUボタン →  カスタムメニュー

オートブラケットの補正順序を変更できます。

N [0] → [-] → [+]	「補正なし」 → 「-側に補正」 → 「+側に補正」の順になります。
->+ [-] → [0] → [+]	「-側に補正」 → 「補正なし」 → 「+側に補正」の順になります。

- カスタムメニュー e6 [オートブラケットのセット] が [ADLブラケット] の場合、e7の設定を変更しても補正順序は変わりません。

f : 操作

f1 : OKボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時とライブビュー時または再生時に  ボタンを押したときの機能を設定できます（1コマ表示中の画像が動画の場合、[再生モード] の設定にかかわらず、 ボタンを押すと動画を再生します）。

■ 撮影モード

 フォーカスポイント中央リセット	 ボタンを押すと、フォーカスポイントが中央に移動します。
 選択フォーカスポイント表示	 ボタンを押すと、選択中のフォーカスポイントが点灯します。
設定しない	 ボタンは機能しません。

■ 再生モード

 1コマとサムネイルの切り換え	 ボタンを押すごとに、1コマ表示とサムネイル表示（4コマ、9コマ、72コマ）を切り換えます。
 ヒストグラム表示	 ボタンを押している間、ヒストグラムを表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
 拡大画面との切り換え	 ボタンを押すと、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度  ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 <ul style="list-style-type: none">• [拡大画面との切り換え] を選んでマルチセレクターの  を押すと、拡大率を [低倍率 (50%)]、[等倍 (100%)]、[高倍率 (200%)] から選べます。• サムネイル表示時も拡大表示できます。
 スロット/ フォルダー指定	 ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定メニュー] 画面が表示され、画像を再生するスロットとフォルダーを指定できます。

■ ライブビュー

RESET	フォーカスポイント 中央リセット	ライブビュー時に \odot ボタンを押すと、フォーカスポイントが画面中央に移動します。
\odot	拡大画面との 切り換え	ライブビュー時に \odot ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度 \odot ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • [拡大画面との切り換え] を選んで \blacktriangleright を押すと、拡大率を [低倍率 (50%)]、[等倍 (100%)]、[高倍率 (200%)] から選べます。
	設定しない	\odot ボタンは機能しません。

f2 : Fnボタンの機能

MENUボタン \rightarrow \blacktriangleright カスタムメニュー

Fnボタンを単独で押したときの機能と、Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

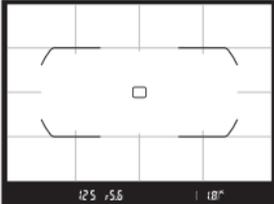


■ 押し時の動作

Fnボタンを単独で押したときの機能を設定できます。

\odot	プレビュー	ファインダー撮影時にFnボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれ、Fnボタンを押している間、被写界深度が確認できます。
Fn	FV-L	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト使用時は、Fnボタンを1回押すとFVロックを行い、もう一度Fnボタンを押すと解除します。
Fn	AE-L/AF-L	Fnボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
Fn	AE-L	Fnボタンを押している間、AEロックを行います。

 AE-L (ホールド)	Fn ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきいてもAEロックは解除されません。ただし、もう一度 Fn ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	Fn ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AF-ON	Fn ボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。
 フラッシュ 発光禁止	Fn ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。
 BKT自動連写	カスタムメニュー e6 [オートブラケットングのセット] が [WBブラケットング] 以外の場合でリリースモードが CL または CH のときは、 Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間、1回分のブラケットング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きブラケットング撮影をします。また、リリースモードが S または Q のときは、 Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを全押しし続けると、1回分のブラケットング設定コマ数を連続撮影します。 [オートブラケットングのセット] が [WBブラケットング] の場合は、 Fn ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間連続撮影して、各コマに対してWBブラケットングを行います。
 プラスRAW記録	画質モードがJPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の場合、 Fn ボタンを押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度 Fn ボタンを押すと [プラスRAW記録] を解除します。
 マルチパターン 測光簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードがマルチパターン測光になります。
 中央部重点測光 簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光になります。
 スポット測光 簡易設定	Fn ボタンを押している間、測光モードがスポット測光になります。

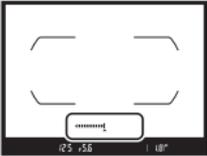
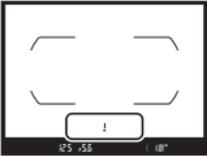
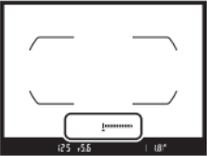
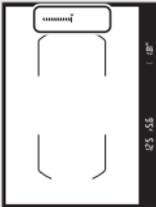
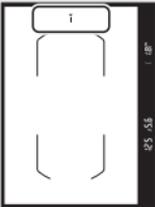
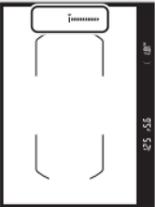
 ファインダー内 格子線表示	撮像範囲が [DX (24×16)] (□37) のときに、Fnボタンを1回押すと、ファインダーに格子線を表示します。もう一度Fnボタンを押すと、格子線表示を終了します。	
 ファインダー内 水準器	Fnボタンを1回押すと、ファインダーにローリング方向の水準器インジケータを表示します (□94)。もう一度Fnボタンを押すと、水準器表示を終了します。	
 マイメニュー	Fnボタンを押すと、マイメニュー (□163) を表示します。	
 マイメニューの トップ項目先へ ジャンプ	Fnボタンを1回押すと、マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。	
 再生	Fnボタンに▶ボタンと同じ機能を割り当てます。望遠レンズなどを使用していて、▶ボタンを左手で操作できないときに便利です。	
設定しない	Fnボタンは機能しません。	

 【押し時の動作】と【コマンドダイヤル併用時の動作】が併用できない場合について

【押し時の動作】と【コマンドダイヤル併用時の動作】の機能が同時に設定できない場合は、メッセージが表示され、先に設定していた内容が【設定しない】に変更されます。

水準器インジケータについて

[押し時の動作] を [ファインダー内水準器] に設定して **Fn** ボタンを押すと、カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、ファインダーにローリング方向の水準器インジケータを表示します。この「水準器インジケータ」の見方は次の通りです。

	カメラが時計回りに傾いている場合	カメラが正位置の場合（傾いていない場合）	カメラが反時計回りに傾いている場合
横位置撮影時			
縦位置撮影時			

- カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。
- セットアップメニューの [水準器表示] (□128) では、液晶モニターに水準器を表示できます。

■■ コマンドダイヤル併用時の動作

Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

 撮像範囲選択	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、 [撮像範囲] (□37) の設定を切り換えられます。
 シャッター・絞値1段選択	カスタムメニューb2 [露出設定ステップ幅] の設定にかかわらず、シャッタースピードまたは絞り値を1段ステップで設定できます。 <ul style="list-style-type: none">撮影モードがSまたはMのとき、Fn ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを1段ステップで設定します。撮影モードがAまたはMのとき、Fn ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を1段ステップで設定します。
Non-CPU 手動設定済みレンズの選択	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] (□129) で設定したレンズNo.のものに切り換えます。
 アクティブD-ライティング設定	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、アクティブD-ライティング (□41) の効果の度合いが切り替わります。
HDR HDR (ハイダイナミックレンジ)	Fn ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、 [HDRモード] が切り替わります (□42)。 Fn ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、 [HDR強度] を変更できます。
 露出ディレーモード	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、露出ディレーモード (□72) の設定を切り換えられます。
設定しない	Fn ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

f3：プレビューボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

Pvボタンを単独で押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。



■■ 押し時の動作

Pvボタンを単独で押したときの機能は、カスタムメニュー f2 [Fnボタンの機能] → [押し時の動作] (□91) と同じです。初期設定は [レビュー] です。

■■ コマンドダイヤル併用時の動作

Pvボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は、カスタムメニュー f2 [Fnボタンの機能] → [コマンドダイヤル併用時の動作] (□95) と同じです。初期設定は [設定しない] です。

f4：AE/AFロックボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

AE/AFロックボタンを単独で押したときの機能と、AE/AFロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。



■■ 押し時の動作

AE/AFロックボタンを単独で押したときの機能を設定できます。

 AE-L/AF-L	AE/AFロックボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	AE/AFロックボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (ホールド)	AE/AFロックボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきいてもAEロックは解除されません。ただし、もう一度AE/AFロックボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	AE/AFロックボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AF-ON	AE/AFロックボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。
 FV-L	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト使用時は、AE/AFロックボタンを1回押すとFVロックを行い、もう一度AE/AFロックボタンを押すと解除します。
設定しない	AE/AFロックボタンは機能しません。

■■ コマンドダイヤル併用時の動作

AE/AFロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

 撮像範囲選択	AE/AFロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、[撮像範囲] (□37) の設定を切り換えられます。
 手動設定済みレンズの選択	AE/AFロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニューの[レンズ情報手動設定] (□129) で設定したレンズNo.のものに切り換えます。
設定しない	AE/AFロックボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

f5：コマンドダイヤルの設定

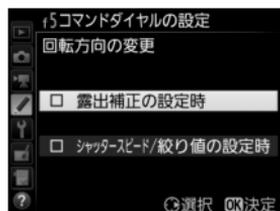
MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を変更できます。

■ 回転方向の変更

露出補正の設定時またはシャッタースピード/絞り値の設定時に、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。

- [露出補正の設定時] または [シャッタースピード/絞り値の設定時] を選んでマルチセレクターの  を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン になります。もう一度  を押すと、チェックボックスがオフ になります。



-  ボタンを押すと、設定が完了します。
- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D15のコマンドダイヤルの回転方向も変更されます。

■ メインとサブの入れ換え

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。

露出設定	[する] を選ぶと、メインコマンドダイヤルで絞り値を、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。[する (Aモード)] を選ぶと、撮影モードAのときのみ、メインコマンドダイヤルで絞り値を設定します。
AF設定	[する] を選ぶと、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してAFエリアモードを、サブコマンドダイヤルを回してAFモードを設定します。

- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D15のコマンドダイヤルの機能も入れ替わります。

■■ 絞り値の設定方法

CPUレンズの装着時に、撮影モード**A**または**M**でレンズの絞りリングを使って絞り値を設定できるように変更できます。

サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤルで絞り値をセットします（[メインとサブの入れ換え]の[露出設定]を[する]に設定した場合は、メインコマンドダイヤルで絞り値をセットします）。
絞りリング	レンズの絞りリングで絞り値をセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞り値の表示は1段ステップになります。

- 絞りリングのないレンズ（Gタイプ、Eタイプレンズ）装着時は、[絞り値の設定方法]での設定にかかわらず、絞り値はサブコマンドダイヤルで設定します。
- 非CPUレンズ装着時は、[絞り値の設定方法]での設定にかかわらず、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。

■再生/メニュー画面で使用

画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

する	<p>再生時：</p> <ul style="list-style-type: none">• 1コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルを回すと、[サブコマンドダイヤルで画像送り] で設定した方法でコマ送りします。• サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、黄色の枠（カーソル）が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、ページを切り換えます。 <p>メニュー画面表示時*：</p> <p>メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。</p>
ON [Ⓞ] する（撮影後確認時を除く）	[する] と同じ内容ですが、撮影直後の画像確認時は操作できません。
しない	再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセクターを操作して行います。

※ サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、**Ⓞ** ボタンかマルチセクターの**Ⓛ** を押してください。

■サブコマンドダイヤルで画像送り

[再生/メニュー画面で使用] で [する] または [する（撮影後確認時を除く）] に設定した場合、1コマ表示時にサブコマンドダイヤルを回したときのコマ送りの方法を設定できます。

10コマ	10コマずつコマ送りします。
50コマ	50コマずつコマ送りします。
📁 フォルダー	再生フォルダーを切り換えます。

f6 : ボタンのホールド設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

[する] に設定して対象のボタンを1回押すと、ボタンを放しても設定できる状態が維持され、コマンドダイヤル単独で設定できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがオフになると、解除されます。

対象のボタン	対象のボタン
 ボタン	?/om (WB) ボタン
 () ボタン	AFモードボタン
 (ISO) ボタン	 (FORMAT) ボタン
 (QUAL) ボタン	BKT ボタン

f7：カードなし時リリース

MENUボタン →  カスタムメニュー

カメラにSDカードを入れていないときのリリース操作を設定できます。

LOCK リリース禁止	SDカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK リリース許可	SDカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。再生時には [デモモード] と表示され、画像は記録できません。

f8：インジケータの+/-方向

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内表示、表示パネルおよびインフォ画面 (Info) での露出、露出補正、オートブラケティングのインジケータの+と-方向を入れ換えることができます。

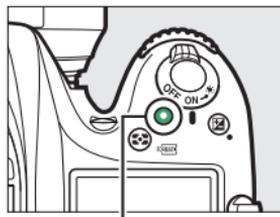
+0-		インジケータの+側を左に、-側を右に表示します。
-0+		インジケータの-側を左に、+側を右に表示します。

f9：動画撮影ボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

■ コマンドダイヤル併用時の動作

ファインダー撮影時またはライブビュー時のライブビューセクターが  のときに、動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。



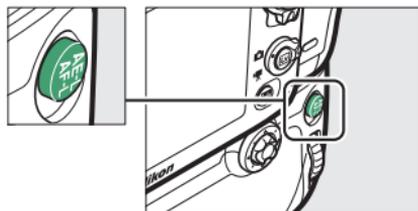
動画撮影ボタン

WB	ホワイトバランス	動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを変更できます (□39)。
ISO	ISO感度	動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、ISO感度を変更できます (□45)。
	撮像範囲選択	動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、撮像範囲を変更できます (□37)。
	設定しない	動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

f10 : MB-D15のAE/AFロックボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D15のAE/AFロックボタンの機能を設定します。



 AE-L/AF-L	AE/AFロックボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	AE/AFロックボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (ホールド)	AE/AFロックボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきいてもAEロックを解除しません。ただし、もう一度AE/AFロックボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	AE/AFロックボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AF-ON	AE/AFロックボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。
 FV-L	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト使用時は、AE/AFロックボタンを1回押すとFVロックを行い、もう一度AE/AFロックボタンを押すと解除します。
 カメラのFn ボタンと同じ	カメラのFnボタンと同じ機能になります (□91)。

f11 : リモコン (WR) のFnボタンの機能

MENU ボタン →  カスタムメニュー

ワイヤレスリモートコントローラーのFnボタンを押したときの機能を設定できます。



 プレビュー	ファインダー撮影時にFnボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれ、Fnボタンを押している間、被写界深度が確認できます。
 FV-L	内蔵フラッシュまたは別売のスピードライト使用時は、FVロックを行い、もう一度Fnボタンを押すと解除します。
 AE-L/AF-L	Fnボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	Fnボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (ホールド)	Fnボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきいてもAEロックは解除されません。ただし、もう一度Fnボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	Fnボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 フラッシュ 発光禁止	Fnボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。
 プラスRAW 記録	画質モードがJPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の場合、Fnボタンを押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度Fnボタンを押すと【 プラスRAW記録 】を解除します。
 ライブビュー	Fnボタンを押すと、ライブビューを開始します。もう一度Fnボタンを押すと、ライブビューを終了します。
 カメラのFn ボタンと同じ	カメラのFnボタンと同じ機能 (□91) になります。

=  カメラのプレビューボタンと同じ	カメラの Pv ボタンと同じ機能 (□96) になります。
=  カメラの  ボタンと同じ	カメラの  AE/AFロックと同じ機能 (□96) になります。
設定しない	Fn ボタンは機能しません。

g1 : Fnボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

■■ 押し時の動作

ライブビュー時のライブビューセクターが**罫**のときに、Fnボタンを押したときの機能を設定できます。初期設定は [設定しない] です。

 インデックス マーキング	動画撮影中にFnボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます。
 静止画撮影 情報の表示	ライブビュー時のライブビューセクターが 罫 のときでも、Fnボタンを押すと静止画を撮影するときの撮影情報が表示されます。もう一度Fnボタンを押すと元の画面に戻ります。
 AE-L/AF-L	Fnボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	Fnボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (ホールド)	Fnボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきいてもAEロックは解除されません。ただし、もう一度Fnボタンを押すと、解除されます。
 AF-L	Fnボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AF-ON	Fnボタンを押すと、オートフォーカスが作動します。
設定しない	Fnボタンは機能しません。

g2：プレビューボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

■■ 押し時の動作

ライブビュー時のライブビューセクターが[●]のときに、Pvボタンを押したときの機能を設定できます。Pvボタンに割り当てられる機能は、カスタムメニュー g1 [Fnボタンの機能] と同じです。初期設定は [インデックスマーキング] です。

g3：AE/AFロックボタンの機能

MENUボタン →  カスタムメニュー

■■ 押し時の動作

ライブビュー時のライブビューセクターが[●]のときに、 AE/AFロックボタンを押したときの機能を設定できます。 AE/AFロックボタンに割り当てられる機能は、カスタムメニュー g1 [Fnボタンの機能] と同じです。初期設定は [AE-L/AF-L] です。

g4 : シャッターボタンの機能

MENU ボタン →  カスタムメニュー

ライブビューセクターが**●**のときに、シャッターボタンを押したときの機能を設定できます。

 静止画撮影	シャッターボタンを全押しすると、アスペクト比（縦横比）16:9の静止画を撮影します（撮影中の動画は終了します）。
● 動画撮影	<p>ライブビューセクターが●のときに、シャッターボタンを半押しすると、ライブビューを開始します。ライブビューの表示中にシャッターボタンを半押しすると、フォーカスモードセクターがAFの場合はピント合わせを行います。また、全押しすると、動画撮影を開始します。もう一度シャッターボタンを押すと、動画撮影を終了します。</p> <ul style="list-style-type: none">• [動画撮影] に設定すると、動画撮影以外のシャッターボタンを使う操作は行えません。• ライブビューを終了するには、 ボタンを押してください。• 別売のリモコンML-L3は使えません。• ライブビューセクターが●のときに、別売のワイヤレスリモートコントローラー（ 188）やリモートコード（ 188）のシャッターボタンを半押ししてライブビューを開始したり、全押しして動画撮影の開始と終了を行います。

Y セットアップメニュー： カメラを使いやすくする基本設定

MENU ボタンを押して、タブのY アイコンを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。



セットアップメニュー項目一覧

セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目		メニュー項目	
カードの初期化 (フォーマット)	111	画像コメント	123
ユーザーセッティングの登録	111	著作権情報	124
ユーザーセッティングのリセット	113	カメラ設定の保存と読み込み	125
モニターの明るさ	114	水準器表示	128
モニターのカラーカスタマイズ	115	レンズ情報手動設定	129
イメージセンサークリーニング	116	AF微調節	129
クリーニングミラーアップ※1	116	HDMI	183
イメージダストオフデータ取得	117	位置情報	131
フリッカー低減	119	Wi-Fi	132
地域と日時	120	NFC	133
言語 (Language)	121	ネットワーク	133
縦横位置情報の記録	121	Eye-Fi送信機能※2	133
電池チェック	122	認証マークの表示	135
		ファームウェアバージョン	135

※1 バッテリー残量表示が以下のときは選べません。

※2 この機能に対応したEye-Fiカードを挿入したときのみ表示されます。

関連ページ

「セットアップメニューの初期設定」(□17)

カードの初期化（フォーマット）

MENUボタン →  セットアップメニュー

SDカードを初期化（フォーマット）します。初期化したいスロットを選んで [はい] を選ぶと、選んだスロットのSDカードを初期化します。初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください (□170)。

カードの初期化についてのご注意

[カードの初期化（フォーマット）中です。] のメッセージが液晶モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、SDカードを取り出さないでください。

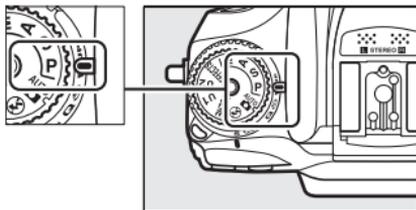
ユーザーセッティングの登録

MENUボタン →  セットアップメニュー

よく使う機能（ユーザーセッティング）を、あらかじめ撮影モードダイヤルU1とU2に登録すると、撮影モードダイヤルを切り換えるだけで、登録したユーザーセッティングの内容で撮影できます。

1 登録したい撮影モードを選ぶ

撮影モードダイヤル

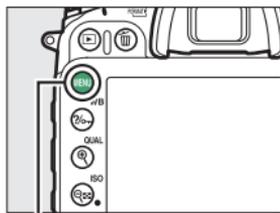


2 登録したい撮影機能を設定する

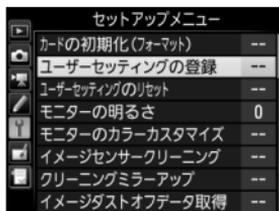
- ユーザーセッティングモード**U1**、**U2**には、次の撮影機能を登録できます。
 - 静止画撮影メニュー項目 (□30)
 - 動画撮影メニュー項目 (□48)
 - カスタムメニュー項目 (□56)
 - シャッタースピード (撮影モード**S**、**M**)、絞り値 (撮影モード**A**、**M**)、プログラムシフト (撮影モード**P**)、露出補正、調光補正、フラッシュモード、フォーカスポイント、測光モード、AFモード、AFエリアモード、オートブラケティング

3 セットアップメニューの [ユーザーセッティングの登録] を選ぶ

- **MENU** ボタンを押して、セットアップメニューの [ユーザーセッティングの登録] を選んでマルチセレクターの  を押します。



MENUボタン



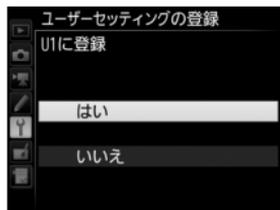
4 設定を登録したいユーザーセッティングモードを選ぶ

- [U1に登録] または [U2に登録] のいずれかを選んで、 を押します。



5 ユーザーセッティングを登録する

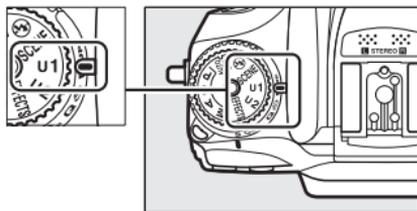
-  または  で、[はい] を選んで  ボタンを押すと、選んだユーザーセッティングモードに現在の設定内容が登録されます。



6 登録したユーザーセッティングで撮影する

- 撮影モードダイヤルをU1またはU2に合わせると、登録したユーザーセッティングの内容で撮影できます。

撮影モードダイヤル



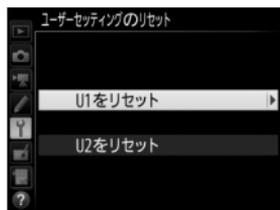
ユーザーセッティングのリセット

MENUボタン →  セットアップメニュー

登録したユーザーセッティングをリセットします。

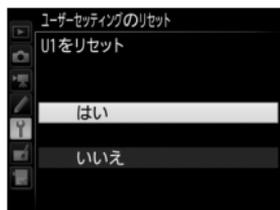
1 リセットしたいユーザーセッティングモードを選ぶ

- [U1をリセット] または [U2をリセット] のいずれかを選んで、 を押します。



2 ユーザーセッティングをリセットする

-  または  で、[はい] を選んで  ボタンを押すと、選んだユーザーセッティングモードに登録された設定内容が、初期設定（撮影モードP）に戻ります。



モニターの明るさ

MENUボタン →  セットアップメニュー

画像の再生時、メニュー表示時、インフォ画面表示時の液晶モニターの明るさをマルチセレクターの  または  を押して調整できます。+にすると明るく、-にすると暗くなります。

ライブビュー時の液晶モニターの明るさについて

- ライブビュー時の液晶モニターの明るさは、ライブビュー時に  ボタンを押したときに表示される [モニターの明るさ] で設定してください。セットアップメニューの [モニターの明るさ] で設定した液晶モニターの明るさは、ライブビュー時の液晶モニターの明るさには反映されません。
- 非常に明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは、液晶モニターの明るさを [+4] 以上に設定すると、液晶モニターが見やすくなりますが、黄色が黄緑に見えることがあります。色の確認を行うときは [+3] 以下に設定することをおすすめします。

モニターの色カスタマイズ

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラの液晶モニターの色調を好みに合わせて変更できます。

- 右のような画面が表示され、マルチセクターで液晶モニターの色みを調整できます。OK ボタンを押すと決定します。

グリーンが強くなる



マゼンタが強くなる



- 液晶モニターの色みを調整すると、メニュー表示や画像再生時またはライブビューの表示全てに反映されますが、撮影した画像には反映されません。
- 最後に撮影した画像または最後に再生した画像がサンプルとして表示されます。撮影した画像がSDカード内がない場合、グレーで表示されます。
-  (ISO) ボタンを押すと、画像の選択画面が表示されます。画像を選んでOK ボタンを押すと、選んだ画像がサンプルとして表示されます。
- 画像の選択画面で  (QUAL) ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



イメージセンサークリーニング

MENUボタン →  セットアップメニュー

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。

実行	イメージセンサークリーニングを実行します。
電源スイッチに連動	<ul style="list-style-type: none">• 電源ONで実行：電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。• 電源OFFで実行：電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。• 電源ONとOFFで実行：電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。• 実行しない：電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

クリーニングミラーアップ

MENUボタン →  セットアップメニュー

イメージセンサークリーニングでゴミやほこりを取りきれないときは、[クリーニングミラーアップ] を選ぶと、ミラーが上った状態で固定され、撮像素子前面を市販のプロアーでクリーニングできます。詳しくは、使用説明書の「カメラのお手入れについて」をご覧ください。ただし、カメラ内部の撮像素子は非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

イメージダストオフデータ取得

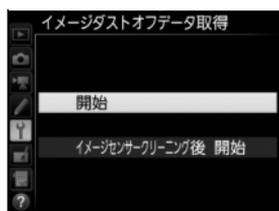
MENUボタン → Y セットアップメニュー

Capture NX-D (□169) の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子前面に付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、Capture NX-Dのヘルプをご覧ください。

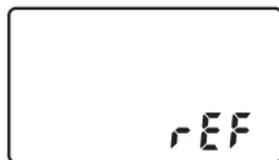
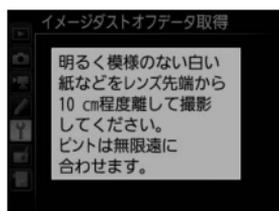
■ イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- [開始] を選んで **OK** ボタンを押すと、
[イメージダストオフデータ取得] 画面が表示されます。



- [イメージセンサークリーニング後 開始] を選んで **OK** ボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、[イメージダストオフデータ取得] 画面が表示されます。
- 表示パネルとファインダー内表示には、右のように表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、**MENU** ボタンを押してください。

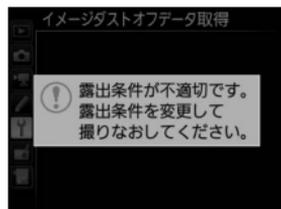


2 レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを押すと、液晶モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、液晶モニターに右の画面が表示され、手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。



イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致なくなるため、Capture NX-Dのイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、**「イメージセンサークリーニング後 開始」**を選択後に撮影することをおすすめします。

✓ イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、[イメージダストオフデータ取得] を選べません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のものをおすすめします。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。



フリッカー低減

MENUボタン →  セットアップメニュー

蛍光灯や水銀灯などの光源下で、ライブビュー時の画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ[オート]をお使いください。[オート]にしているも、フリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、[50 Hz]と[60 Hz]から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では[50 Hz]を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では[60 Hz]を選んでください。

✓ フリッカー低減についてのご注意

- [オート]に設定してもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをするをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。絞りを絞り込んで(より大きい数値にして)ください。

地域と日時

MENUボタン → Y セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順を設定します。



現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、[日時の設定] で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。	
日時の設定	[現在地の設定] で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。	
日付の表示順	液晶モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、[年/月/日]、[月/日/年]、[日/月/年] から選びます。	
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は[する]に、そうでない場合は[しない]に設定します。[する]にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は[しない]です。	

- カメラの内蔵時計の設定が初期化されている場合、インフォ画面に⊕マークが点滅して警告します。

言語 (Language)

MENUボタン →  セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を選びます。

縦横位置情報の記録

MENUボタン →  セットアップメニュー

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

する	<p>液晶モニターやCapture NX-DまたはViewNX-iで画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。</p> <p>記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3種類です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"><div style="text-align: center;"><p>横位置</p></div><div style="text-align: center;"><p>縦位置 時計回りに 90°回転</p></div><div style="text-align: center;"><p>縦位置 反時計回りに 90°回転</p></div></div>
しない	縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。

✔ 縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

📄 再生メニュー [縦位置自動回転]

再生メニューの [縦位置自動回転] (□27) では、[縦横位置情報の記録] を [する] に設定して縦位置で撮影された画像を、液晶モニターに縦位置で表示するように変更できます。

電池チェック

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。



残容量	バッテリーの残量を1%単位で表示します。
撮影回数	充電後にシャッターをきった回数を表示します。
劣化度	バッテリーの劣化度合いが5段階のバークラフで表示されます。 <ul style="list-style-type: none">バークラフが「0」() のときは、バッテリーは劣化していません。バークラフが「4」() のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

撮影回数について

〔撮影回数〕に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がSDカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1ずつ加算されます。

低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、〔電池チェック〕で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

マルチパワーバッテリーパックMB-D15装着時の表示について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D15を装着している場合、MB-D15に入れたバッテリーがLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15のときは、カメラに装着したバッテリーと同様に表示されます。単3形電池を使用している場合は、残容量にバッテリー残量表示のアイコンが表示され、その他の項目は表示されません。



画像コメント

MENUボタン →  セットアップメニュー

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、Capture NX-DまたはViewNX-iのメタデータで確認できます。

■ コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。[コメント入力] を選んでマルチセクターの  を押しと、画像コメントの入力画面が表示されます。入力方法については、「入力画面の操作方法について」をご覧ください (□34)。

■ コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、[コメント添付] を選んで  を押し、チェックボックスをオン にします。OK ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。



画像情報に表示される画像コメントについて

入力・添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます。

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、Capture NX-DまたはViewNX-iのメタデータで確認できます。

■ 撮影者名入力、著作権者名入力

36文字までの撮影者名と、54文字までの著作権者名を登録できます。[撮影者名入力] または [著作権者名入力] を選んでマルチセクターの  を押すと名前を入力画面が表示されます。入力方法については、「入力画面の操作方法について」をご覧ください (P34)。

■ 著作権情報添付

登録した著作権情報を画像に添付したいときは、[著作権情報添付] を選んで  を押し、チェックボックスをオン にします。OK ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。



✓ 著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、[著作権情報添付] の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- [著作権情報] の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

✓ 画像情報に表示される著作権情報について

入力・添付された著作権情報は、「撮影情報」に表示されます。

カメラ設定の保存と読み込み

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラの各機能の設定データをSDカードに保存できます。また、SDカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数のD7200を同じ設定で使う場合などに便利です。カメラ設定の保存と読み込みに使用するSDカードは、スロット1に入れてください。

設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

再生 メニュー	再生画面設定
	撮影直後の画像確認
	削除後の次再生画像
	縦位置自動回転
静止画撮影 メニュー	ファイル名設定
	スロット2の機能
	画質モード
	画像サイズ
	撮像範囲
	JPEG圧縮
	RAW記録
	ホワイトバランス(微調整値、プリセットマニュアルデータ)
	ピクチャーコントロール(登録されたカスタムピクチャーコントロールは「スタンダード」で保存します)
	色空間
	アクティブD-ライティング
	ヴィネットコントロール
	自動ゆがみ補正
	長秒時ノイズ低減
	高感度ノイズ低減
ISO感度設定	
リモコンモード設定 (ML-L3)	

動画撮影 メニュー	ファイル記録先
	画像サイズ/フレームレート
	動画の画質
	マイク感度
	録音帯域
	風切り音低減
	撮像範囲
	ホワイトバランス(微調整値、プリセットマニュアルデータ)
	ピクチャーコントロール(登録されたカスタムピクチャーコントロールは「スタンダード」で保存します)
	高感度ノイズ低減
	動画ISO感度設定
カスタムメニュー	[カスタムメニューのリセット] を除く全メニュー
セットアップ メニュー	イメージセンサークリーニング
	フリッカー低減
	地域と日時(日時の設定を除く)
	言語(Language)
	縦横位置情報の記録
	画像コメント
	著作権情報
	レンズ情報手動設定
	HDMI
	位置情報
	NFC
Eye-Fi送信機能	
マイメニュー/ 最近設定した項目	マイメニューに登録したメニュー項目
	最近設定したメニュー項目
	このタブの機能変更

■■ 保存

カメラの設定データをSDカードに保存します。SDカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。

■■ 読み込み

SDカードからカメラの設定データを読み込みます。SDカードが装着されていないときや、SDカードに設定データが記録されていないときは、**[読み込み]** は選べません。

設定データについてのご注意

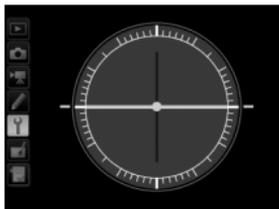
SDカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSETUPH」です。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。

水準器表示

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、液晶モニターにローリング方向の水準器を表示します。

- カメラを正位置（傾きのない状態）にすると、水準器表示の基準線が緑色に変わります。
- 水準器の1目盛は、約5°を表します。



カメラが正位置の場合



カメラがローリング
方向に傾いている場合

ライブビュー時の水準器の表示について

ライブビュー時に水準器を表示するには、液晶モニターに水準器が表示されるまで  ボタンを繰り返し押ししてください。

水準器の精度について

カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。

関連ページ

ファインダーに水準器インジケータを表示する →  f2 [Fn ボタンの機能]
(□93、94)

レンズ情報手動設定

MENUボタン →  セットアップメニュー

非CPUレンズの情報を登録します。非CPUレンズの焦点距離と開放絞り値をカメラに登録することにより、CPUレンズ装着時と同じ機能が一部使えるようになります。

レンズNo.	レンズ情報を登録するレンズNo.を選びます。
焦点距離 (mm)	レンズの焦点距離を選びます。
開放絞り値	レンズの開放絞り値を選びます。

AF微調節

MENUボタン →  セットアップメニュー

装着したレンズごとに最適なピント合わせを行いたいときに、自分でピント位置を調節できます。通常はAF微調節を行う必要はありません。必要な場合のみ調節を行ってください。正常なレンズを調整すると、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

AF微調節	する	AF微調節の設定が有効になります。
(する/しない)	しない	AF微調節を行いません。

<p>個別レンズの登録</p>	<p>装着しているCPUレンズの微調節値を登録できます。マルチセレクターの  または  を押して、+20～-20の範囲で調節できます。最大12種類のレンズを登録できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 非CPUレンズや、すでに登録してあるレンズと同じ種類のレンズは登録できません。 	<p>今回の微調節値</p>  <p>ピントが合う位置がカメラから遠ざかります。</p>
<p>その他レンズの登録</p>	<p>【個別レンズの登録】で登録していないCPUレンズを装着したときに、一律で微調節する値を設定します。 または  を押して、+20～-20の範囲で調節できます。</p>	<p>前回設定した微調節値</p>  <p>ピントが合う位置がカメラに近づきます。</p>
<p>個別レンズ登録リスト</p>	<p>【個別レンズの登録】で登録したレンズを一覧表示します。登録リストからレンズを選んで  を押すと、右の画面が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 【識別番号入力】画面では、レンズの識別番号を変更できます。 または  を押して識別番号を選んで、 ボタンを押します。 <p>【個別レンズの登録】は同じ種類のレンズを複数登録できないため、たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号の末尾2桁などを設定しておくことで、どのレンズで登録したかを識別できるので便利です。</p>	

✓ AF微調節設定時のご注意

AF微調節を行うと、レンズの無限遠側または至近側で、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。

✓ ライブビュー時のAF微調節について

ライブビュー時にオートフォーカスでピント合わせを行うときは、【AF微調節】で設定した微調節値は適用されません。

個別レンズの登録について

同じ種類のレンズは複数登録できませんが、テレコンバーターを装着した場合は違うレンズとして個別登録できます。

登録したレンズを削除するには

【個別レンズの登録】で登録したレンズを削除するには、【個別レンズ登録リスト】画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、 (FORMAT) ボタンを押します。

HDMI

MENUボタン →  セットアップメニュー

HDMI対応機器との接続時の設定を変更したり、HDMI-CEC対応テレビのリモコンから制御できるように設定できます (□183)。

位置情報

MENUボタン →  セットアップメニュー

別売のGPSユニットGP-1またはGP-1A (□188) との接続時の設定を変更できます。

半押しタイマー	[有効] を選ぶと、カメラを操作していないとき、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□68) で設定された時間で半押しタイマーがオフになります。[無効] を選ぶと、GP-1/GP-1A と接続中は半押しタイマーがオフになりません。
情報表示	GP-1/GP-1A接続時に取得した情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none">• 緯度：緯度を表示します。• 経度：経度を表示します。• 標高：標高を表示します。• UTC：UTC (協定世界時) を表示します。UTC (Coordinated Universal Time = 協定世界時) は、GP-1/GP-1Aと接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。
衛星による日時合わせ	[する] を選ぶと、GP-1/GP-1A接続時に取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。

Wi-Fi

MENUボタン →  セットアップメニュー

Android OS またはiOSのスマートデバイスとカメラをWi-Fi(無線LAN)で接続できます。スマートデバイスに取り込みたい複数の画像をまとめて送信指定することもできます。

通信機能	Wi-Fiの通信機能の有効/無効を設定できます。
接続設定	<p>スマートデバイスとのWi-Fi接続方式を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• WPSプッシュボタン方式: Android OSを搭載したスマートデバイスがWPS接続に対応している場合 (スマートデバイスの [Wi-Fi設定] に [WPSボタン接続] がある場合)、WPSプッシュボタン方式でカメラとスマートデバイスを接続できます。• WPS PINコード方式: Android OSを搭載したスマートデバイスがWPS接続に対応している場合、スマートデバイスのPINコードをカメラに入力することで、カメラとスマートデバイスを接続できます。• SSIDの表示: スマートデバイスがWPS接続に対応していなくても、カメラに表示されるSSIDをスマートデバイス側で選ぶことで、カメラとスマートデバイスを接続できます。• 接続設定のリセット: Wi-Fi接続設定をリセットします。
スマートデバイスへの送信指定	スマートデバイスに取り込みたい静止画をあらかじめ選んで送信指定します。

NFC

MENUボタン →  セットアップメニュー

[有効] に設定すると、ファインダー撮影で半押しタイマーがオンのときに、カメラの  (Nマーク) とスマートデバイスのNFCアンテナ部をタッチするだけの簡単な操作でカメラとスマートデバイスを接続できます。カメラとスマートデバイスを接続したくない場合は、[無効] に設定してください。

ネットワーク

MENUボタン →  セットアップメニュー

別売の通信ユニットUT-1とカメラを接続して、有線LANまたは無線LANでパソコンやFTPサーバーと通信する場合の設定を行います(□173)。

Eye-Fi送信機能

MENUボタン →  セットアップメニュー

このメニューは、市販のEye-Fiカードをカメラに挿入したときのみ、表示されます。

有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効	Eye-Fi送信機能を使用しません。

- 電波の状態が悪い場合、[有効] に設定していても送信できないことがあります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を[無効] にしてください。

Eye-Fi送信機能が無効のときのご注意

[無効] に設定しているときでも、電波が出力される場合があります。[無効] に設定していても  が表示されるときは、カメラがEye-Fiカードをコントロールできていません(□134)。カメラの電源をOFFにしてEye-Fiカードを取り出してください。

✔ Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、インフォ画面のEye-Fi通信マークで確認できます。

- : [Eye-Fi送信機能] が [無効] に設定されています。
-  (点灯): 画像の送信を待っています。
-  (点滅): 画像の送信中です。
- : 未送信の画像がありません。
- : エラーが発生しました。Eye-Fiカードをコントロールできません。

- 表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部で **[Red]** が点滅している場合は、Eye-Fiカードのファームウェアが最新版になっているか確認してください。ファームウェアが最新版でもエラーが発生する場合は、新しいEye-Fiカードに交換するか、必要な画像をパソコンなどに転送してバックアップした後、カメラでEye-Fiカードをフォーマットしてからご使用ください。
- **[Red]** が点滅していない場合は、続けて撮影できます。ただし、Eye-Fi送信機能の設定を変更できないことがあります。



✔ Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- Eye-Fiカードの使用方法はEye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。Eye-Fiカードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。
- スロット1とスロット2の両方にEye-Fiカードを使用すると、転送が不安定となるためおすすめしません。
- このカメラには Eye-Fi カードの通信機能を ON/OFF する機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保障するものではありません。
- Eye-Fi カードは、ご購入された国でのみ使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fiカードを使う場合は、カスタムメニューc2 [半押しタイマー] を30秒以上に設定してください。
- Eye-Fiカードの販売の有無は地域によって異なりますので、カードメーカーにお問い合わせください。
- Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。

認証マークの表示

MENUボタン → ㊄ セットアップメニュー

このカメラが取得している認証マークの一部を表示します。

ファームウェアバージョン

MENUボタン → ㊄ セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

🔍 画像編集メニュー： 撮影した画像に行う編集機能

MENU ボタンを押して、タブの🔍アイコンを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。



画像編集メニュー項目一覧

画像編集メニューでは、SDカード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像として記録されます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

- カメラにSDカードが入っていない場合やSDカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューはグレーで表示されて選択できません。

メニュー項目		メニュー項目	
D-ライティング	139	ゆがみ補正	153
赤目補正	140	魚眼効果	154
トリミング	141	塗り絵	154
モノトーン	142	カラースケッチ	155
フィルター効果	143	アオリ効果	156
画像合成※1	144	ミニチュア効果	157
RAW現像	147	セレクトカラー	158
リサイズ	149	動画編集	161
簡単レタッチ	152	編集前後の画像表示※2	161
傾き補正	152		

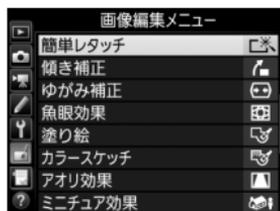
※1 MENUボタンを押して、タブの🔍アイコンを選んだときのみ選べます。

※2 編集前または編集後の画像を1コマ表示してiボタンを押して、[画像編集]を選んだときのみ表示されます。

■ 画像編集の操作方法

1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

マルチセレクターの \odot または \ominus でメニュー項目を選び、 \rightarrow を押します。



2 画像を選ぶ

- マルチセレクターで画像を選びます。
- QUAL ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
- 画像を選んで OK ボタンを押すと、編集画面が表示されます。



3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、**MENU**ボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

- OK ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。
- 画像編集した画像には OK マークが付きます。



i ボタンを押して画像編集メニューを表示する

1コマ表示モードで静止画を選んでから **i** ボタンを押して [画像編集] を選ぶと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます。

✔ 画像編集についてのご注意

- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまましばらく経過すると、液晶モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニューc4 [モニターのパワーオフ時間] (□69) の [メニュー表示] の時間を長く設定することをおすすめします。

✔ 繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、退色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません ([画像合成]、[動画編集] の [始点/終点の設定] を除く)。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

📄 画質モードについて

- 元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、[画質モード] (□36) が [FINE] のJPEG画像になります。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画質モードになります。
- どの画質モードで撮影した画像も、[JPEG圧縮] は [サイズ優先] になります。
- RAW画像とJPEG画像を1枚のSDカードに同時に記録した場合は、RAW画像が画像編集の対象になります。

📄 画像サイズについて

- 元画像がRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、[画像サイズ] (□37) が [サイズL] のJPEG画像になります ([トリミング] と [リサイズ] を除く)。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画像サイズになります ([トリミング] と [リサイズ] を除く)。

D-ライティング

MENUボタン →  画像編集メニュー

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。



D-ライティング前



D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセクターの  または  を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



赤目補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。

赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

トリミング

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。



切り抜く範囲を狭くする	 (ISO)	ISO ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲は狭くなります。
切り抜く範囲を広くする	 (QUAL)	QUAL ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲は広くなります。
画像のアスペクト比(縦横比)を変更する		メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を変更できます。
切り抜く範囲を移動する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。
トリミングを実行して画像を保存する		トリミングした画像が記録されます。

✓ トリミング画像についてのご注意

- トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。
- トリミング画像の画質モード (□36) は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードのときは [FINE] になり、[FINE]、[NORMAL]、[BASIC] のときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミングする範囲とアスペクト比(横:縦)により変わります。



モノトーン

MENUボタン →  画像編集メニュー

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

[モノトーン] を選ぶと、右のメニューが表示され、色調を選ぶことができます。



白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。

- [セピア] または [クール] を選んだ場合は、マルチセクターで色の濃さを調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。

濃くする



薄くする



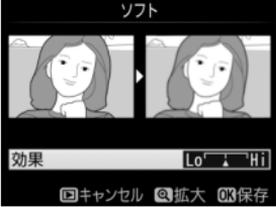
調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。

- OKボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

フィルター効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

カラーフィルター、クロスフィルター、ソフトフィルターなどをレンズに装着して撮影したような画像になります。

<p>スカイ ライト</p>	<p>スカイライトフィルターのように、画像の青みを抑える効果があります。</p>	 <p>編集画面では、プレビュー画像を表示します。</p>
<p>ウォーム トーン</p>	<p>画像を暖色にする効果があります。</p>	
<p>クロス スクリーン</p>	<p>クロスフィルターのように、太陽の反射や街灯などの光源から、放射状に光の筋が伸びる効果があります。</p> <ul style="list-style-type: none">• [光線の本数]：光線の本数を、3種類から選べます。• [クロスの量]：クロスフィルターがかかる光源の量を3段階から選べます。• [光線の傾き]：光線の傾きを3段階から選べます。• [光線の長さ]：放射状に伸びる光の長さを3段階から選べます。	 <p>[確認] を選んで OK ボタンを押すと、現在設定している内容を画像に反映します。Q (QUAL) ボタンを押している間、1コマ表示モードと同じ大きさで画像を確認できます。保存する場合は [保存] を選んで OK ボタンを押してください。</p>
<p>ソフト</p>	<p>ソフトフィルターのように、画像をソフトな雰囲気仕上げます。</p>	 <p>⏪ または ⏩ を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。</p>

- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

画像合成

MENUボタン →  画像編集メニュー

SDカードに記録されているRAW 画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。



1 画像編集メニュー画面で【画像合成】を選ぶ

- 【画像合成】を選んでマルチセクターの  を押すと、右のような画面が表示され、【画像1】欄がハイライト表示されます。



2 合成する画像の1コマ目を選ぶ

-  ボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネール一覧から、1コマ目の画像を選びます。
-  (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 1コマ目の画像を決定する

-  ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、【画像1】欄にプレビューが表示されます。



4 2コマ目の画像を選ぶ

- を押して「画像2」を選び、手順2～3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に「画像1」と「画像2」を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、「画像1」または「画像2」を選んで●または●を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。



6 「プレビュー」欄に移動する

- または●を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、「保存」を選んで●ボタンを押してください。



7 合成画像の構図を確認する

- 「合成」を選び、●ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、●(ISO)ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。



8 合成画像を保存する

- もう一度 **OK** ボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。



✓ 画像合成についてのご注意

- プレビュー画像と実際の合成画像では、色や明るさなどの見え方が異なることがあります。
- 合成できる画像は、このカメラで撮影したRAW 画像だけです。機種異なるカメラやRAW 以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像の画質モード (□36) と画像サイズ (□37) は、合成時のカメラの設定と同じになります。画像合成をする前に、これらの設定を確認してください。合成した画像をさらに別のRAW 画像と合成したいときは、画質モードをRAW に設定してください。
- **[撮像範囲]** と **[記録ビットモード]** が同じRAW 画像のみ合成できます。
- 合成時にRAW を含む画質モードが選ばれている場合、元画像と同じ記録ビットモードになります。また、記録方式は合成時のカメラの設定になります。
- 合成時の画質モードがJPEG の場合、**[JPEG圧縮]** は **[サイズ優先]** になります。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、撮影モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、**[画像1]** で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

RAW現像

(パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する)

MENUボタン →  画像編集メニュー

RAWを含む画質モード (□36) で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 画像編集メニュー画面で [RAW現像] を選ぶ

- [RAW現像] を選んでマルチセクターの  を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。

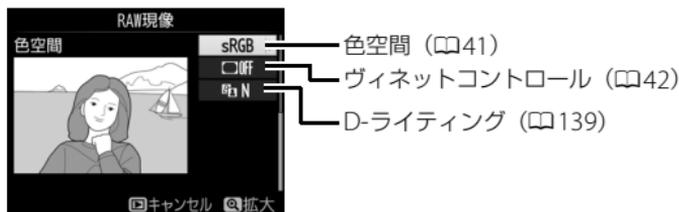


2 RAW現像する画像を選ぶ

- マルチセクターでRAW現像する画像を選び、 ボタンを押します。
-  (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 表示されている項目をそれぞれ設定する



4 RAW現像する

- [現像] を選んで \odot ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- RAW現像後のJPEG画像が保存されます。
- キャンセルして画像編集メニューに戻る時は、**MENU**ボタンを押してください。



✓ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 多重露出撮影した画像や[画像合成]で編集した画像の場合、[ホワイトバランス]と[ヴィネットコントロール]は選べません。
- [露出補正]で設定できる明るさ(-2~+2)は、通常の露出補正の段数とは異なります。

リサイズ

MENUボタン →  画像編集メニュー

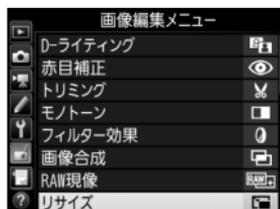
サイズの小さい画像を作成します。SDカードを2枚使用している場合は、記録先のスロットも指定できます。

■ 複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する

MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像のリサイズ画像を一度に作成できます。

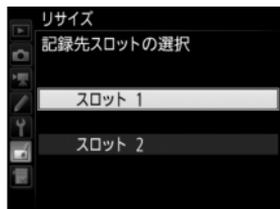
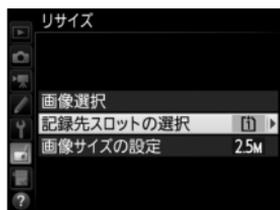
1 画像編集メニュー画面で [リサイズ] を選ぶ

- [リサイズ] を選んでマルチセクターの  を押します。



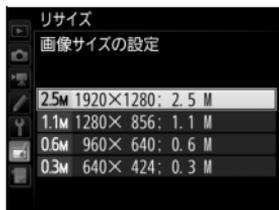
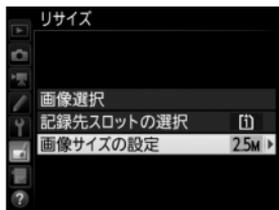
2 記録先のスロットを選ぶ

- SDカードを2枚使用している場合は、[記録先スロットの選択] を選んで  を押します。
- SDカードが1枚しか入っていない場合は、[記録先スロットの選択] を選ばません。手順3に進んでください。
-  または  でスロットを選び、 ボタンを押します。



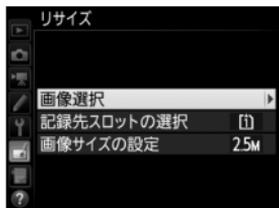
3 画像サイズを設定する

- [画像サイズの設定] を選んで \blacktriangle を押します。
- \blacktriangle または \blacktriangledown で画像サイズを選び、 \odot ボタンを押します。



4 [画像選択] を選ぶ

- [画像選択] を選んで \blacktriangle を押すと、画像の選択画面が表示されます。



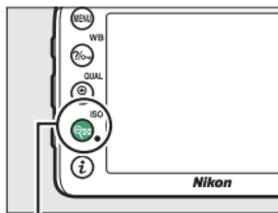
5 リサイズしたい画像を選ぶ

- マルチセクターでリサイズしたい画像を選びます。
- QUAL (QUAL) ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



6 設定する

- **Q** (ISO) ボタンを押すと、**ISO**が表示されます。もう一度**Q** (ISO) ボタンを押すと、**ISO**が消えます。
- リサイズする画像全てに設定したら、**OK** ボタンを押します。

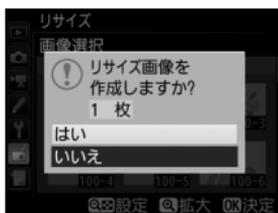


Q (ISO) ボタン



7 リサイズ画像を作成する

- 確認画面で **はい** を選んで、**OK** ボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。



✓ リサイズ画像についてのご注意

- リサイズ画像は、拡大表示できないことがあります。
- リサイズ画像の画質モード (□36) は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードのときは **[FINE]** になり、**[FINE]**、**[NORMAL]**、**[BASIC]** のときは元画像と同じ画質モードになります。

簡単レタッチ

MENUボタン →  画像編集メニュー

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。

カメラがD-ライティングの機能を使って、画像の暗い部分を明るく補正したり、コントラストと彩度（色の鮮やかさ）を高めたりします。

- マルチセレクターの  または  を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画面で確認できます。
- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



傾き補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



傾きを補正する		マルチセレクターの  を押すと時計回りに傾き、  を押すと反時計回りに傾きます。
傾き補正を実行して画像を保存する		傾き補正した画像が記録されます。

ゆがみ補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。[オート] を選ぶと選択した画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。[マニュアル] を選ぶと自分でゆがみを補正できます。



- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- [オート] は、Gタイプ、Eタイプ、またはDタイプレンズで撮影した画像のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズで撮影した画像には機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。
- [自動ゆがみ補正] (□43) を行った画像の場合、[マニュアル] のみ選べます。

ゆがみを補正する		<ul style="list-style-type: none">• たる型のゆがみを補正するには、マルチセレクターの  を押します。• 糸巻き型のゆがみを補正するには、  を押します。
ゆがみ補正を実行して画像を保存する		ゆがみ補正した画像が記録されます。

ゆがみ補正についてのご注意

補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。

魚眼効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

フィッシュアイ（魚眼）レンズで撮影したような画像になります。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。
- 魚眼効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



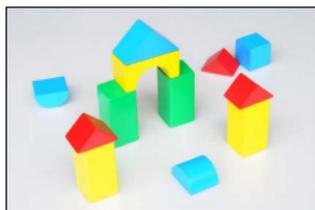
魚眼効果を調節する		マルチセレクターの  を押すほど、魚眼効果は大きくなり、  を押すほど小さくなります。
魚眼効果を実行して画像を保存する		魚眼効果の画像が記録されます。

塗り絵

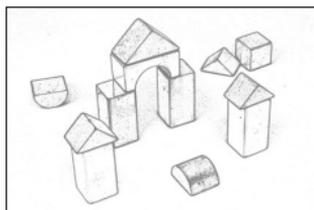
MENUボタン →  画像編集メニュー

輪郭を抽出して塗り絵の原画風の画像を作成できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



塗り絵処理前



塗り絵処理後

カラスケッチ

MENUボタン →  画像編集メニュー

輪郭を抽出して色をつけることで、スケッチ風の画像を作成できます。

- 編集画面では、プレビュー画面を表示します。



色の濃さを変える		マルチセクターの  または  を押して [色の濃さ] を選んでから、  を押すと色が濃くなり、  を押すと薄くなります。
線の濃さを変える		 または  を押して [線の濃さ] を選んでから、  を押すと線が濃くなり、  を押すと薄くなります。[線の濃さ] を濃くすると、画像全体の色も濃くなります。
カラスケッチ画像を保存する		カラスケッチ画像が記録されます。

アオリ効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



アオリ効果を調節する		マルチセクターの     でアオリの効果を変更できます。
アオリ効果を実行して画像を保存する		アオリ効果の画像が記録されます。



アオリ効果処理前



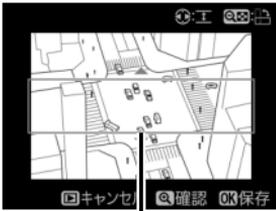
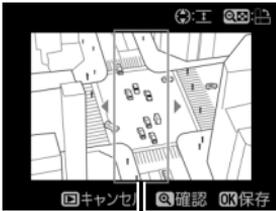
アオリ効果処理後

ミニチュア効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

ミニチュア（模型）を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した画像が適しています。

- [ミニチュア効果] を選ぶと、黄色い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。

効果を加える方向を変える	 (ISO)	ISO (ISO) ボタンを押すと、効果を加える方向を縦と横から選べます。
ぼかさない範囲を決める		<p>横方向に効果を加える場合、マルチセレクターの  または  を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。</p> <div data-bbox="657 473 933 684">  </div> <p>ぼかさない範囲</p>
ぼかさない範囲を決める		<p>縦方向に効果を加える場合、 または  を押して枠を動かし、ぼかさないではっきりと見せる範囲を選びます。</p> <div data-bbox="657 745 933 956">  </div> <p>ぼかさない範囲</p>
効果を加える幅を変える		横方向に効果を加える場合、  または  で効果を加える幅の広さを選びます。
効果を加える幅を変える		縦方向に効果を加える場合、  または  で効果を加える幅の広さを選びます。
プレビューを表示する	 (QUAL)	プレビューが表示され、効果を確認できます。

ミニチュア効果
を実行して画像
を保存する



ミニチュア効果の画像が記録されます。

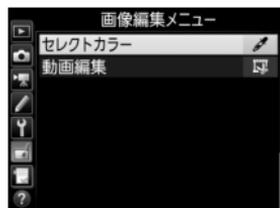
セレクトカラー

MENUボタン →  画像編集メニュー

選択した色のみを残し、それ以外の色をモノトーン(白黒)に加工します。

1 画像編集メニュー画面で [セレクトカラー] を選ぶ

- [セレクトカラー] を選んでマルチセクターの  を押すと、画像の選択画面が表示されます。



2 加工する画像を選ぶ

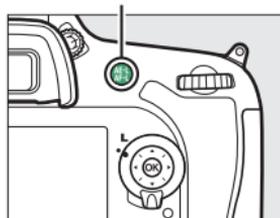
- マルチセクターで画像を選び、 ボタンを押します。
-  (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 残したい色を抽出する

- マルチセクターで色取得の枠を画像の残したい色の上に重ねます。
- **Q** (**QUAL**) ボタンを押すと拡大表示され、残したい色を細部まで確認できます。**Q** **ISO** ボタンを押すと縮小表示します。
- 残したい色の彩度によっては、抽出しにくい場合があります。彩度の高い色の抽出をおすすめします。
- **AE/AF**ロックボタンを押すと、色の枠に抽出した色が表示されます。

AE/AFロックボタン



色 色取得



4 色の感度の枠を選ぶ

- メインコマンドダイヤルを回して、色の感度の枠を選びます。
- 抽出した色以外の色は、モノトーンで表示されます。

色の感度



5 抽出する色の感度を設定する

- または ● を押して、抽出する色の感度を [1] ~ [7] から設定します。数値が大きいくほど抽出する色の色相が広くなり、小さいほど狭くなります。
- 色の感度を高く設定しすぎると、選択した色に近い色相の色も抽出されます。



6 抽出する色を追加する

- メインコマンドダイヤルを回して、別の色の枠と感度の枠を選び、手順3~5と同じ手順で色を抽出し、色の感度を設定します。
- 最大3色まで設定できます。
- 抽出した色の枠を選んで **FORMAT** ボタンを押すと、抽出した色をリセットします。
- 抽出した全ての色を削除したい場合は、**FORMAT** ボタンを押し続けます。確認画面で **[はい]** を選んで **OK** ボタンを押すと、全ての色をリセットします。



7 決定する

- **OK** ボタンを押すと、セレクトカラー画像が保存され、1コマ表示になります。



動画編集

MENUボタン →  画像編集メニュー

撮影した動画を編集できます。

 始点/終点の設定	動画の必要な部分だけを残します。
 選択フレームの保存	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。

編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、編集元の画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示してから **i** ボタンを押して、**[画像編集]** を選んだときのみ表示されます。

■ 編集前後の画像表示方法

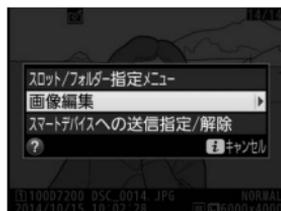
1 1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像編集で作成した画像 ( が表示されている画像) または画像編集の元画像のみを選べます。



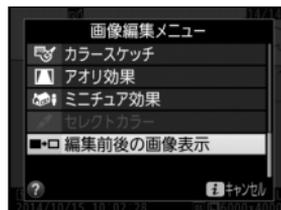
2 [画像編集] を選ぶ

- i** ボタンを押し、**[画像編集]** を選んで **(OK)** ボタンを押します。



3 [編集前後の画像表示] を選ぶ

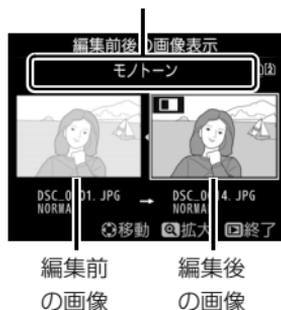
- [編集前後の画像表示] を選んで \odot ボタンを押すと、[編集前後の画像表示]画面を表示します。



4 編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクターの \odot または \odot で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、 \odot または \odot で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、 \odot または \odot で編集後の画像を切り換えられます。
- \oplus (QUAL) ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- \odot ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を1コマ表示モードで再生します。
- \square ボタンを押すと、再生画面に戻ります。

画像編集の内容



✓ 編集前後の画像表示についてのご注意

- プロテクトが設定されている画像を編集した場合、編集前の画像は表示されません。
- 編集元の画像を削除した場合や非表示設定 (□20) にした場合、画像の入ったカードが画像編集時とは違うスロットに入っている場合も、編集前の画像は表示されません。

マイメニュー / 最近設定した項目

MENUボタンを押して、タブの📁アイコンを選ぶと、[マイメニュー]画面が表示されます。



マイメニュー：よく使うメニューを登録する

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

マイメニューに登録する

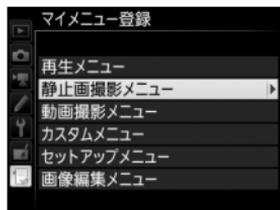
1 [マイメニュー]画面で[マイメニュー登録]を選ぶ

- [マイメニュー登録]を選んで、マルチセクターの▶を押します。



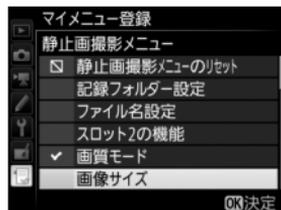
2 登録したいメニューを選ぶ

- 登録したいメニューを選んで▶を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。



3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

- マイメニューに登録する項目を選んで
OKボタンを押します。



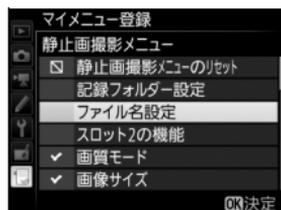
4 登録する項目の表示位置を選ぶ

-  または  で登録する項目の表示位置を選んで、OKボタンを押します。



5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する

- ✓が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に☑が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
- 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録します。



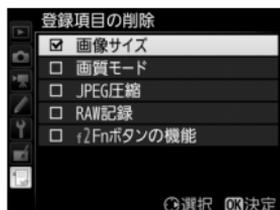
■ 登録した項目を削除する

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の削除] を選ぶ

- [登録項目の削除] を選び、マルチセクターの  を押します。

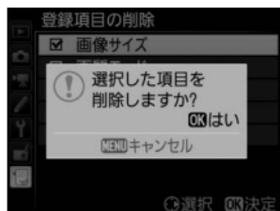
2 削除したいメニュー項目を選ぶ

-  を押すと、項目の左側のチェックボックスが になります。
- 削除したい全ての項目に を入れます。



3 選んだ項目を削除する

-  ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度  ボタンを押すと、選んだ項目が削除されます。



ボタン操作で登録した項目を削除するには

[マイメニュー] 画面で削除したい項目を選んで  (SELECT) ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度  (SELECT) ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

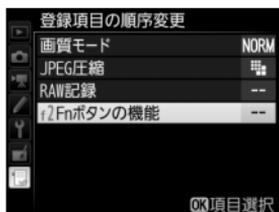
■ 登録した項目の表示順序を変える

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の順序変更] を選ぶ

- [登録項目の順序変更] を選び、マルチセレクターの  を押します。

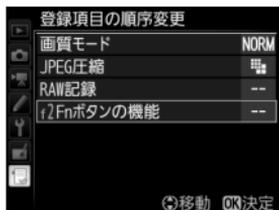
2 順番を変えたい項目を選ぶ

- 順番を変えたい項目を選んで、 ボタンを押します。



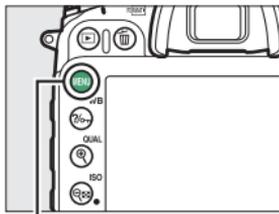
3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

-  または  で移動したい位置を選んで、 ボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順2~3を繰り返します。



4 [マイメニュー] 画面に戻る

- MENU ボタンを押すと、[マイメニュー] 画面に戻ります。



MENU ボタン



■「マイメニュー」を「最近設定した項目」に変更する

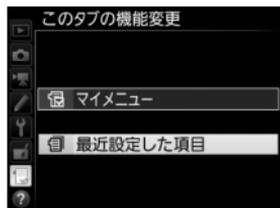
1 [マイメニュー] 画面で [このタブの機能変更] を選ぶ

- [このタブの機能変更] を選び、マルチセクターの▶を押します。



2 [最近設定した項目] を選ぶ

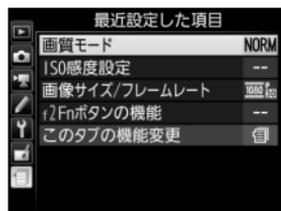
- [このタブの機能変更] 画面で [最近設定した項目] を選んで、OK ボタンを押します。
- [マイメニュー] が [最近設定した項目] に切り替わります。



📄 最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

■「最近設定した項目」の設定方法

メニューを設定するたびに「最近設定した項目」に追加されます。最大20項目まで登録されます。



📄 最近設定した項目を削除するには

「最近設定した項目」画面で削除したい項目を選んで🗑️ ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度🗑️ ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

📄 「最近設定した項目」から「マイメニュー」に戻すには

「最近設定した項目」の「このタブの機能変更」を選ぶと、「マイメニュー」を「最近設定した項目」に変更する（☑️167）の手順2と同じ画面が表示されます。「マイメニュー」を選んで📄 ボタンを押すと、「マイメニュー」に切り替わります。

資料

パソコンに画像を取り込む方法

ViewNX-iをインストールする

ViewNX-iは、画像や動画の転送、閲覧ができるソフトウェアです。ViewNX-iのインストールにはインターネットに接続できる環境が必要です。ソフトウェアの最新情報、動作環境は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

- ViewNX-iは、下記のホームページからViewNX-iの最新のインストーラーをダウンロードし、画面の指示に従ってインストールしてください。

<http://nikonimglib.com/nvnxi/>

Capture NX-Dについて

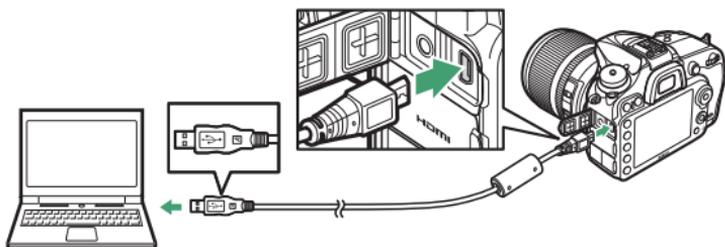
Capture NX-Dは、カメラで撮影した画像を調整したり、RAW現像したりできるニコンのソフトウェアです。Capture NX-Dは下記ホームページからダウンロードしてインストールできます。

<http://nikonimglib.com/ncnxd/>

ViewNX-iを使ってパソコンに画像を取り込む

1 パソコンに接続する

- SDカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続し、カメラの電源をONにします。



2 ViewNX-iのNikon Transfer 2が起動する

- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選びます。

3 画像をパソコンに取り込む

- [転送開始] をクリックすると、記録されている画像がパソコンに取り込まれます（Nikon Transfer 2の初期設定）。



[転送開始]

4 接続を解除する

- カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜きます。

Windows 7をお使いの場合

図のような画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。



- 1 [画像とビデオのインポート] で使用するプログラムにNikon Transfer 2を選ぶ
• [画像とビデオのインポート] の [プログラムの変更] をクリックすると表示される画面で、[画像ファイルを取り込む -Nikon Transfer 2使用] を選んで、[OK] をクリックします。
- 2 [画像ファイルを取り込む] をダブルクリックする

Windows 8.1をお使いの場合

Windows 8.1の設定によっては、図のようなダイアログが表示されます。この場合は次の手順でNikon Transfer 2を選びます。

- 1 ダイアログをクリックする
- 2 [画像ファイルを取り込む -Nikon Transfer 2] をクリックする

タップして、このデバイスに対して行う操作を選んでください。

このデバイスに対して行う操作を選んでください。

-  画像ファイルを取り込む
Nikon Transfer 2
-  デバイスを開いてファイルを表示する
エクスプローラー
-  写真とビデオのインポート
フォト
-  何もしない

ViewNX-iの詳しい使い方は

ViewNX-iのヘルプを参照してください。

パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源を OFF にしたり、USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。
- カメラとパソコンを接続するときは、十分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。

USBハブについて

USBハブを使ってカメラをパソコンやプリンターに接続すると、正しく動作しないことがあります。

有線LAN/無線LANを使ってパソコンに画像を転送する

このカメラは、別売の通信ユニットUT-1 (□189) をカメラに付属のUSBケーブルで接続することにより、有線LANでパソコンやFTPサーバーと通信できます。さらに、UT-1にワイヤレストランスミッターWT-5 (□189) を取り付けると、無線LANで通信を行えます。

有線LAN/無線LAN接続時に使える機能

FTP画像送信モード	SDカードに記録した静止画および動画や、撮影直後の静止画をパソコンやFTPサーバーに保存できます。
PC画像送信モード	
カメラコントロールモード	別売のCamera Control Pro 2で、カメラをコントロールしたり、撮影した静止画および動画をパソコンに保存できます。
HTTPサーバーモード	パソコンやiPhoneのWebブラウザからSDカードに記録した画像などの閲覧やリモート撮影ができます。

- UT-1およびWT-5の使用方法については、各製品の使用説明書をよくお読みください。
- UT-1およびWT-5のファームウェアや関連するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。

✔ 画像送信モード

FTP画像送信モードやPC画像送信モードでUT-1を接続しているときは、画像再生時に **i** ボタンを押して、選択画像を転送できます（接続していないときは、転送設定のみを行います）。このため、**[編集前後の画像表示]** (□161) など、画像再生時に **i** ボタンを押す操作 (□137) は使えなくなります。画像の転送以外に **i** ボタンを使うときは、接続設定を削除してください。接続設定を削除する方法については、UT-1の使用説明書をご覧ください。

✔ 画像転送状態でのご注意

画像転送状態のときは、動画の記録および再生はできません。（画像転送状態とは、UT-1が接続されており、画像を転送中、または、転送予定の画像が残っている状態のことです）。

動画の転送について

動画は画像送信モードでパソコンに転送できます。ただし、[オプション]の[撮影後自動送信]および[フォルダー送信]で動画を転送することはできません。

HTTPサーバーモードについて

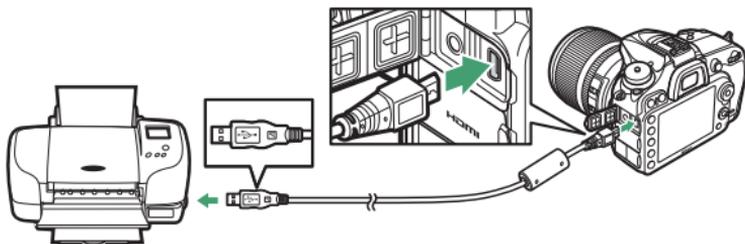
HTTPサーバーモードでは、カメラ本体での動画の記録および再生はできません。

画像を印刷する方法

PictBridge (ピクトブリッジ) 対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを付属のUSBケーブルで直接接続してSDカード内の画像をプリントできます (ダイレクトプリント)。

カメラとプリンターを接続する

USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。



- カメラとプリンターの電源をONにすると、液晶モニターにPictBridgeのロゴが表示された後、撮影された画像が表示されます。

✓ **ダイレクトプリントの前に**

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いになることをおすすめします。
- 直接プリントする画像は、静止画撮影メニューの【色空間】を【sRGB】に設定して撮影してください (□41)。

✓ **USBハブについて**

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

✓ **ダイレクトプリントについてのご注意**

- RAW 画像 (□36) はダイレクトプリントできません。RAW 画像の場合は画像編集メニューの【RAW現像】 (□147) で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- 【フチ設定】と【範囲指定】は、それぞれの機能に対応していないプリンターでは選べません。なお、【範囲指定】で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選んで **OK** ボタンを押す

- マルチセクターの **◀** または **▶** を押してプリントしたい画像を選びます。
 - 1コマ表示中に **QUAL** ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示します。 **▶** ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
 - **ISO** ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。 **QUAL** ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
-

2 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで **▶** を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。設定方法については、「プリント設定項目について」(P177) をご覧ください。
-

3 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで、**OK** ボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度 **OK** ボタンを押してください。

■ ■ プリント設定項目について

用紙設定※	プリントする用紙のサイズを選んで OK ボタンを押します。プリンターが対応する用紙サイズのみが表示されます。
枚数指定	プリントする枚数(1～99枚)を設定して OK ボタンを押します。
フチ設定※	[あり] を選んで OK ボタンを押すと、画像にフチを付けてプリントします。
日付プリント※	[あり] を選んで OK ボタンを押すと、画像に日付をプリントします。
範囲指定	[する] を選んで、マルチセレクターの ▶ を押すと、[範囲指定]画面が表示されます。プリント範囲(黄色の枠)は ISO ボタンを押すと狭くなり、 QUAL ボタンを押すと広くなります。マルチセレクターを操作するとプリント範囲が移動します。プリント範囲を決定するには OK ボタンを押します。

※ プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に [プリンターの設定] を選んでください。

複数の画像をプリントする

1 カメラとプリンターを接続し (□175)、撮影した画像が表示されたらMENUボタンを押す

2 プリント方法を選んで、プリントする画像や枚数を設定する

- プリント方法を選んでマルチセクターの▶を押します。

プリント 画像選択	<p>プリントする画像と枚数を選んでプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• マルチセクターでプリントする画像を選び、ISO ボタンを押しながら▶または◀を押して枚数 (1 ~ 99 枚) を設定して、OK ボタンを押します。• QUAL ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。• プリントしない画像は枚数を0にします。
日付選択	<p>指定した日付に撮影した全ての画像を1枚ずつプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• プリントする日付を選び、▶を押して設定します。• ISO ボタンを押すと、選択している日付に撮影した画像をサムネイル表示します。• もう一度ISO ボタンを押すと、日付選択画面に戻ります。• サムネイル表示中に QUAL ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。• 日付を設定したら、OK ボタンを押します。
DPOF プリント	<p>再生メニューの [プリント指定 (DPOF)] (□180) で設定した画像をプリントします。プリント指定した画像と枚数を確認してからOK ボタンを押します。</p>
INDEX プリント	<p>SDカードの中のJPEG画像 (□36) を一覧できる「インデックス」をプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• [INDEXプリント] 画面が表示されたら、OK ボタンを押します。• インデックスプリントできるのは256コマまでです。SDカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります (確認画面が表示されます)。• 用紙サイズによってはプリントできない場合があります (警告メッセージが表示されます)。

3 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。[用紙設定]、[フチ設定]、[日付プリント] を設定できます。設定方法については、「プリント設定項目について」(□177) をご覧ください。

4 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んでOKボタンを押すと、プリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度OKボタンを押してください。

関連ページ

プリント時のエラーについては、使用説明書の「警告メッセージ」をご覧ください。

プリントしたい画像を指定する（プリント指定）

SDカードをプリンターのカードスロットに挿入して印刷するときや、プリントサービス店に持ち込んでプリントを依頼するとき、またはカメラとプリンターを直接接続してダイレクトプリントするとき（☐175）に、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます（プリンターやプリントサービス店がDPOF規格に対応している必要があります）。プリント指定の方法は次の通りです。

- 1 再生メニューの【プリント指定（DPOF）】で【設定】を選んでマルチセクターの▶を押す



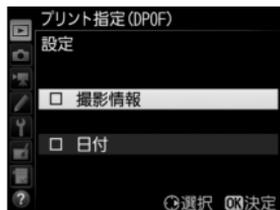
- 2 プリントする画像と枚数を設定する

- マルチセクターでプリントする画像を選び、ISO ボタンを押しながら▶ または◀を押して枚数（1～99枚）を設定して、OK ボタンを押します。
- QUAL ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- プリントしない画像は枚数を0にします。



3 プリント指定の項目を設定する

- 指定した画像全てに撮影情報や日付をプリントしたい場合は、[撮影情報] または [日付] を選び、 を押してチェックボックスをオン にします。



4 ボタンを押して、プリント指定を終了する

プリント指定についてのご注意

- ダイレクトプリント時には、[プリント指定 (DPOF)] の [撮影情報] と [日付] の設定は無効になります。ダイレクトプリントで日付をプリントしたい場合は、ダイレクトプリントの [日付プリント] を [あり] にしてください。
- SDカードの残量が充分にないときは、プリント指定ができない場合があります。
- RAW画像 (□36) は、プリント指定ができません。画像編集メニューの [RAW現像] (□147) で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- プリント指定を行ったSDカード内のデータを、このカメラ以外で削除しないでください。正しくプリントできなくなる場合があります。

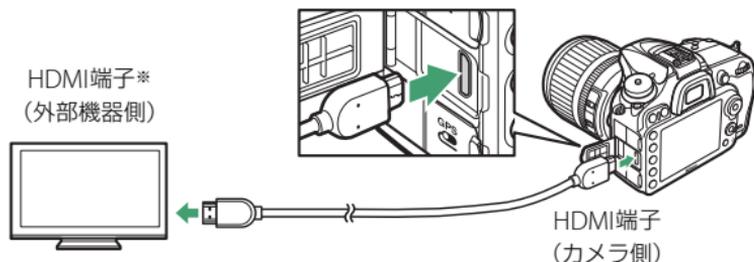
設定したプリント指定を一括で解除したいときは

前ページの手順1の画面で [一括解除] を選ぶと、[プリント指定 (DPOF)] で設定した内容を全て解除します。

画像をテレビで見する方法

HDMIケーブルを使ってハイビジョンテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるハイビジョンテレビなどと接続できます。接続には、別売のHDMI端子用ケーブル（□189）または市販のHDMI端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。



※使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

- テレビの入力をHDMI入力に切り換え、カメラの電源をONにして▶ボタンを押すと、撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。

HDMI対応機器との接続時の設定を変更する

セットアップメニュー (□110) の [HDMI] で、HDMI対応機器との接続時の設定を変更したり、HDMI-CEC対応テレビのリモコンから制御できるように設定できます。

■ 出力解像度

HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。

- [出力解像度] が [オート] の場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。



■ 機器制御

HDMI-CEC対応テレビのリモコンを使って、1コマ表示とスライドショー再生のカメラ操作を行えます。

1 カメラとHDMI-CEC対応テレビを接続する

2 HDMI-CEC対応テレビとカメラの電源をONにする

- [機器制御] が [する] の場合、カメラのマルチセクターやOKボタンの代わりにHDMI-CEC対応テレビのリモコンを使ってカメラを操作できるようになります。
- [機器制御] が [しない] の場合は、HDMI-CEC対応テレビのリモコンでカメラは動作しません。

■ 詳細設定

出力レンジ	<p>ビデオ信号の色階調の入力範囲（RGBレンジ）は、HDMI対応機器によって異なります。通常は、HDMI対応機器に合わせて自動で出力レンジを切り換える【オート】をお使いください。HDMI対応機器のRGBレンジを識別できない場合は、次のいずれかを選んでください。</p> <ul style="list-style-type: none">• リミテッドレンジ: RGBレンジが16～235の機器に適しています。画面で黒色がつぶれて表示される場合に選びます。• フルレンジ: RGBレンジが0～255の機器に適しています。黒色が明るく表示されたり、薄く表示されたりする場合に選びます。
出力画面サイズ	HDMI対応機器の画面に出力する範囲を、95%と100%から選びます（いずれも上下左右とも）。
ライブビュー時の情報表示	HDMI接続してライブビュー撮影または動画撮影するときに、HDMI対応機器に撮影情報を表示するかどうかを設定します。【しない】の場合は、撮影情報が表示されません。
モニターの同時表示	HDMI対応機器との接続時に、カメラの液晶モニターを点灯するかどうかを設定します。【しない】を選ぶと、液晶モニターが消灯するため、カメラのバッテリーの消費を少なくすることができます。

HDMI、HDMI-CECとは

「HDMI」とは、High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。「HDMI-CEC」とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

HDMI-CEC対応テレビとの接続時の表示

HDMI-CEC対応テレビとの接続時には、表示パネルの記録可能コマ数表示部に【E】が表示されます。

機器制御について

詳しくは、テレビの使用説明書などをご覧ください。

📌 テレビでの画像の再生について

- 画像の再生方法は、液晶モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラレて表示される場合があります。その場合は、セットアップメニュー [HDMI] → [詳細設定] → [出力画面サイズ] (□184) を [95%] に設定してください。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いになることをおすすめします。

📌 HDMIケーブル接続時のライブビュー撮影と動画撮影について

- HDMI ケーブルでカメラとテレビをつなぐと、テレビ画面を見ながらライブビュー撮影や動画撮影を行えます。
- [画像サイズ/フレームレート] (□50) を [1920×1080 60p] に設定して動画を記録しながらHDMI出力するには、次の条件を全て満たす必要があります。
 - [HDMI] > [出力解像度] : [オート] または [1080p (プログレッシブ)]
 - [HDMI] > [詳細設定] > [出力画面サイズ] : [100%]
 - [HDMI] > [詳細設定] > [ライブビュー時の情報表示] : [しない]その他の設定にした場合、動画記録中に [HDMI] (□183) の [出力解像度] や [出力画面サイズ] の設定、フレームレートが変更されてHDMI出力されることがあります。

使用できるアクセサリー

D7200には撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

電源

- **Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15**
ニコンデジタルカメラD7200用のバッテリーです。
 - **バッテリーチャージャー MH-25a**
Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15用のチャージャーです。
- MH-25aの代わりにバッテリーチャージャーMH-25も使えます。
 - **マルチパワーバッテリーバックMB-D15**
MB-D15には縦位置シャッターボタンとメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤル、マルチセレクター、AE/AFロックボタンが装備されているので、縦位置での撮影に便利です。カメラ本体のMB-D15用接点カバーを取り外して装着します。
 - **パワーコネクタ EP-5B、ACアダプター EH-5b***
ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。
- このカメラは、カメラ本体とACアダプターを接続するためにパワーコネクタ EP-5Bが必要です。カメラとパワーコネクタ、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクタ、ACアダプターの接続方法」(P191)をご覧ください。
- EH-5bの代わりにACアダプター EH-5/EH-5aも使えます。
- マルチパワーバッテリーバック MB-D15 をカメラに装着してACアダプターを使用する場合、EP-5Bは、カメラではなくMB-D15に入れてください。なお、カメラとMB-D15の両方にEP-5Bを入れて使用しないでください。
- * 日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。

ファインダー用
アクセサリ

• **接眼補助レンズDK-20C**

遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。- 5、- 4、- 3、- 2、0、+ 0.5、+ 1、+ 2、+ 3m⁻¹の9種類が用意されていますが、いずれもこのカメラの視度調節ダイヤルが基準位置（-1m⁻¹）の場合の値です。視度補正は個人差が大きいため店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能がついています（-2～+1m⁻¹）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにお使いください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当てでは使用できません。

• **マグニファイイングアイピースDK-21M**

このカメラのファインダー倍率を約1.17倍（50 mm F 1.4レンズ使用時・∞・-1.0 m⁻¹のとき）に拡大します。

• **マグニファイヤー DG-2**

ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。

• **アイピースアダプター DK-22**

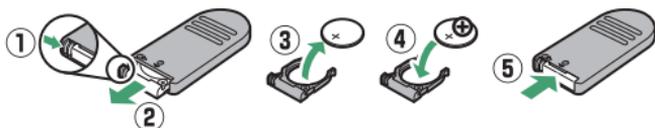
上記DG-2を取り付けるためのアダプターです。

• **角窓用変倍アングルファインダー DR-6**

カメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。

• リモコンML-L3

リモコン用電池（CR2025型3Vリチウム電池）の交換方法



電池室のノブを右側に押しながら (①)、隙間に爪などを差し込んで手前に引き出して (②) ください。リチウム電池を入れる際は、「+」と「-」の向きをよくご確認ください (④)。

リモコン/
ワイレス
リモートコント
ローラー/
リモートコード

• ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10 (□105)

ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10をカメラのアクセサリターミナルに装着すると、ワイヤレスリモートコントローラー WR-T10からの操作で無線での遠隔撮影を行えます。

• ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 (□105)

WR-1は、他のWR-1やWR-R10またはWR-T10と組み合わせて、送信機または受信機として使います。たとえば、受信機に設定したWR-1をカメラのアクセサリターミナルに取り付けると、送信機に設定したWR-1からの操作で、遠隔撮影したりカメラの設定を変更したりすることができます。

• リモートコードMC-DC2 (長さ：約1m)

リモートコードMC-DC2をカメラのアクセサリターミナルに接続すると、カメラから離れてリリース操作ができます。

GPSユニット

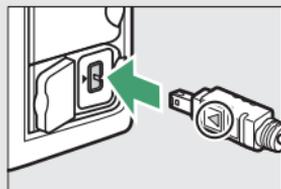
• GPSユニットGP-1/GP-1A (□131)

GP-1/GP-1Aをカメラのアクセサリターミナルに接続することにより、撮影時の緯度、経度、標高、UTC (協定世界時) を画像データに記録することができます。

📌 アクセサリターミナルについて

図のようにアクセサリターミナルの▷マークとコネクタの◁マークを合わせて、コネクタをアクセサリターミナルに接続します。

- 使用しないときは、カメラの端子カバーを必ず閉じてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。



無線/有線 LAN アダプター	<ul style="list-style-type: none"> ● 通信ユニットUT-1 (□173) USB ケーブルで UT-1 をカメラに接続してから、LAN ケーブルを UT-1 に接続することにより、カメラで撮影した画像を有線でパソコンやFTP サーバーに転送したり、別売のCamera Control Pro 2 を使ってパソコンからカメラを遠隔操作できます。さらに、パソコンやiPhoneのWeb ブラウザーから画像を閲覧したり、リモート撮影することもできます。 ● ワイヤレストランスミッター WT-5 (□173) カメラに接続したUT-1に取り付けることにより、UT-1の機能を無線LANで使えます。 通信ユニットおよびワイヤレストランスミッターをお使いいただく場合は、有線LAN、無線LANの知識および環境が必要です。通信ユニットおよびワイヤレストランスミッターに関連するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。
HDMI ケーブル	<ul style="list-style-type: none"> ● HDMIケーブルHC-E1 (□182) カメラ側がType C、HDMI機器側がType AのHDMIケーブルです。
外部マイク	<ul style="list-style-type: none"> ● ステレオマイクロホンME-1 (□51)
アクセサリ シューカバー	<ul style="list-style-type: none"> ● アクセサリシューカバー BS-1 スピードライトを取り付けるアクセサリシューを保護するためのカバーです。
ボディー キャップ	<ul style="list-style-type: none"> ● ボディーキャップBF-1B、BF-1A レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

<p>フィルター</p>	<ul style="list-style-type: none"> • フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、NCフィルターをお使いください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL、C-PL II）をお使いください。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND25、ND45、ND4、ND85、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。 • 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。
<p>ニコンデジタルカメラ専用ソフトウェア</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Camera Control Pro 2 パソコンからカメラを操作して静止画や動画を撮影したり、撮影した画像を直接パソコンへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。Camera Control Pro 2で画像の記録先の設定が【PC】になっている場合、カメラとパソコンを接続してCamera Control Pro 2を起動すると、表示パネルにPC接続中マークが表示されます。 • ソフトウェアは必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。ご使用のパソコンがインターネットに接続されている場合、OSログオン後に所定時間を経過すると、ニコンメッセージセンター 2はソフトウェアの更新情報などを確認します（初期設定）。更新情報がある場合は、「通知の画面」が自動的に表示されます。 • 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

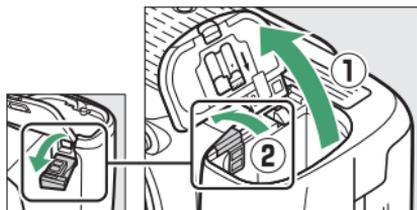
 **使用できるアクセサリについて**

- 国または地域によって、販売していない場合があります。
- アクセサリの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

カメラとパワーコネクター、ACアダプターの 接続方法

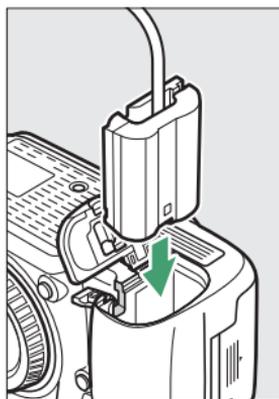
カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源がOFFになっていることを確認してください。

- 1** カメラのバッテリー室
カバー (①) とパワーコ
ネクターカバー (②) を
開ける



2 パワーコネクター EP-5Bを入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをパワーコネクター側面で押しながら、パワーコネクターを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがパワーコネクターに掛かり、パワーコネクターがロックされます。



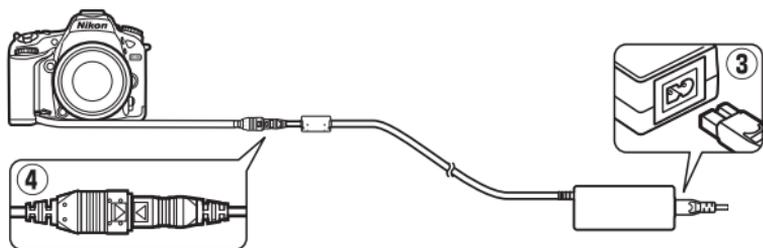
3 カメラのバッテリー室
カバーを閉じる

- パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー室カバーを閉じます。



4 パワーコネクターとACアダプター EH-5bを接続する

- 電源コードのACプラグを、ACアダプターのACプラグ差し込み口に差し込みます (③)。
- パワーコネクターのDCプラグコネクターにACアダプターのDCプラグを差し込みます (④)。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、液晶モニター上のバッテリー残量表示がに変わります。



撮影モードによって設定に制限がある機能一覧

次の機能については、✓が付いている撮影モードでのみ設定が可能です。

	AUTO		P、S、A、M	 	 	 				 	
静止画撮影メニュー/動画撮影メニュー	ホワイトバランス	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	
	ピクチャーコントロール	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	
	アクティブ D-ライティング	— ※1	— ※1	✓	— ※1	— ※1	—	—	—	—	
	HDR (ハイダイナミック レンジ)	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	
	長秒時ノイズ低減	✓	✓	✓	✓	✓	—	✓	✓	✓	
	高感度ノイズ低減	✓	✓	✓	✓	✓	—	✓	✓	✓	
	ISO感度設定	✓ ※2	✓ ※2	✓	✓※2	✓※2	—	✓ ※2	✓ ※2	✓ ※2	✓ ※2
	多重露出	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	
	動画ISO感度設定	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	
	微速度撮影	✓	✓	✓	✓	✓	—	—	—	—	
撮影関連の設定	測光モード	—	✓	—	—	—	—	—	—	—	
	露出補正	—	✓	✓	✓	✓	✓	—	—	—	
	オートブラケティング	—	—	✓	—	—	—	—	—	—	
	フラッシュモード	✓	—	✓	✓	—	—	✓	—	—	
	調光補正	—	—	✓	✓	—	—	—	—	—	
	FVロック	✓	—	✓	✓	—	—	✓	—	—	
	ファインダー撮影時の AFモード	✓	✓	✓	✓	✓	✓	—	—	✓	
ファインダー撮影時の AFエリアモード	✓	✓	✓	✓	✓	—	✓	—	✓		

	AUTO		P, S, A, M								
撮影関連の設定	ライブビュー時のAFモード	✓	✓	✓	✓	✓	✓	-	-	✓	✓
	ライブビュー時のAFエリアモード	✓	✓	✓	✓	✓	✓	※3	※3	-	※3
カスタムメニュー	a9: 内蔵AF補助光の照射設定	✓	✓	✓	✓※4	✓※5	✓	✓	-	✓	✓
	b3: 露出補正簡易設定	-	-	✓	-	-	-	-	-	-	-
	b4: 中央部重点測光範囲	-	-	✓	-	-	-	-	-	-	-
	d5: フラッシュ使用推奨表示	-	-	✓	-	-	-	-	-	-	-
	e2: フラッシュ時シャッタースピード制限	-	-	✓	-	-	-	-	-	-	-
	e3: 内蔵フラッシュ発光/外付けフラッシュ発光	-	-	✓	-	-	-	-	-	-	-
	e4: フラッシュ使用時の露出補正	-	-	✓	-	-	-	-	-	-	-
	e5: モデリング発光	-	-	✓	-	-	-	-	-	-	-
	e6: オートブラケティングのセット	-	-	✓	-	-	-	-	-	-	-
e7: BKTの順序	-	-	✓	-	-	-	-	-	-	-	

※1 アクティブD-ライティングは、常に「オート」になります。

※2 「ISO感度」の「Hi-BW1」または「Hi-BW2」は設定できません。また、「感度自動制御」は設定できません。

※3 ターゲット追尾AFには設定できません。

※4 撮影モードがのときは設定できません。

※5 撮影モードが, , のときのみ設定できます。

撮影モードによって設定に制限がある機能について

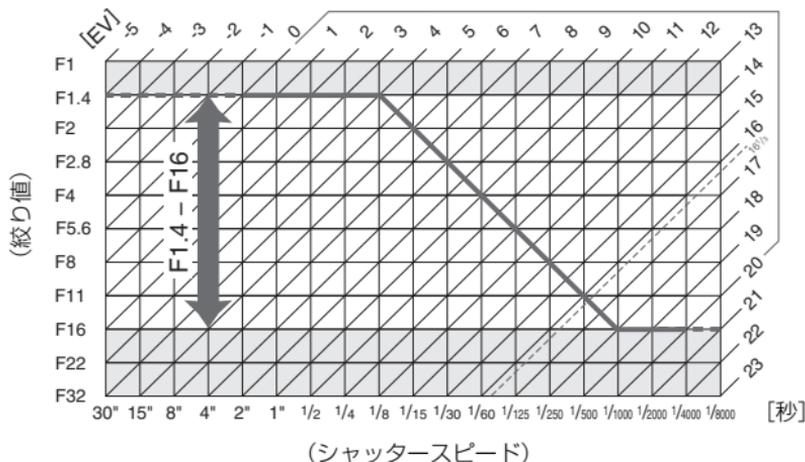
上記以外にも、組み合わせによっては設定できない機能があります。

撮影モードP（プログラムオート）のプログラム線図

次のグラフは、ファインダー撮影時に撮影モードがPのときの露出制御プログラム（ISO 100の場合）を表しています。

ISO 100、開放絞りF1.4・最小絞りF16のレンズ
 (例：AF-S NIKKOR 50mm f/1.4G) の場合

測光範囲：EV 0～20



- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 100の場合16 1/3を超えるEV値では、全て16 1/3として制御されます。

AF補助光撮影、内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについて

■ AF補助光撮影に制限のあるレンズについて

- 使用できるAFレンズの焦点距離は18~200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5mから3.0mです。
- 使用するレンズや撮影距離によっては、AF補助光がレンズでさえぎられることがあります。
- AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。
- AF補助光撮影に制限のあるレンズは次の通りです。

AF補助光を使ってオートフォーカス撮影ができないレンズ

AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED

AF-S NIKKOR 200mm f/2G ED VR II

AF-S VR Nikkor 200mm f/2G IF-ED

AF-S VR Zoom-Nikkor 200-400mm f/4G IF-ED

AF-S NIKKOR 200-400mm f/4G ED VR II

撮影距離によってAF補助光を使ったオートフォーカス撮影に制限のあるレンズ

AF-S Zoom-Nikkor 17-35mm f/2.8D IF-ED

AF-S DX Zoom-Nikkor 17-55mm
f/2.8G IF-ED

AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VR

AF-S DX NIKKOR 18-300mm f/3.5-6.3G ED VR

AF Zoom-Nikkor 20-35mm f/2.8D IF

AF Zoom-Nikkor 24-85mm f/2.8-4D IF

AF-S NIKKOR 24-85mm f/3.5-4.5G ED VR

AF-S VR Zoom-Nikkor 24-120mm
f/3.5-5.6G IF-ED

AF-S NIKKOR 35mm f/1.4G

AF Micro-Nikkor 200mm f/4D IF-ED

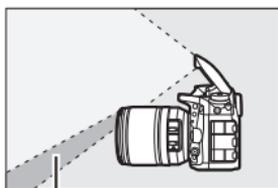
0.7m以内では内蔵AF補助光を使ったオートフォーカス撮影はできません。

撮影距離によってAF補助光を使ったオートフォーカス撮影に制限のあるレンズ

AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18-200mm f/3.5-5.6G IF-ED	1.0m 以内では内蔵AF 補助光 を使ったオートフォーカス撮 影はできません。
AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED	
AF Zoom-Nikkor 24-120mm f/3.5-5.6D IF	
AF-S Zoom-Nikkor 28-70mm f/2.8D IF-ED	
AF Zoom Micro Nikkor ED 70-180mm f/4.5-5.6D	
AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-ED	1.5m 以内では内蔵AF 補助光 を使ったオートフォーカス撮 影はできません。
AF-S DX NIKKOR 18-300mm f/3.5-5.6G ED VR	
AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR	
AF-S NIKKOR 28-300mm f/3.5-5.6G ED VR	
AF-S DX NIKKOR 55-300mm f/4.5-5.6G ED VR	
AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR II	
AF Zoom-Nikkor 80-200mm f/2.8D ED	2.0m 以内では内蔵AF 補助光 を使ったオートフォーカス撮 影はできません。
AF-S VR Zoom-Nikkor ED 70-200mm f/2.8G (IF)	
AF-S NIKKOR 70-200mm f/4G ED VR	
AF-S Zoom Nikkor ED 80-200mm f/2.8D (IF)	

■ 内蔵フラッシュ撮影に制限のあるレンズについて

- 内蔵フラッシュには、焦点距離が16mmから300mmまでのCPUレンズが使用できます。
 - 撮影距離0.6m以上で使用してください。
 - マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- 使用するレンズや撮影距離によっては、フラッシュのケラレが発生することがあります。
- ケラレとは、内蔵フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、写真に写り込む現象です。



影



ケラレ

- ケラレを防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。
- 次のAFレンズではフラッシュの光がさえぎられるため、焦点距離や撮影距離に制限があります。静止画撮影メニューの[撮像範囲]が[DX (24×16)]のときにケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離は、次の通りです。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S DX NIKKOR 10-24mm f/3.5-4.5G ED	<ul style="list-style-type: none">● 焦点距離18mmでは撮影距離1.0m以上● 焦点距離20mmでは撮影距離1.0m以上● 焦点距離24mmでは制約なし
AF-S DX Zoom-Nikkor 12-24mm f/4G IF-ED	<ul style="list-style-type: none">● 焦点距離18mmでは撮影距離1.5m以上● 焦点距離20mmでは撮影距離1.0m以上● 焦点距離24mmでは制約なし
AF-S DX Zoom-Nikkor 17-55mm f/2.8G IF-ED	<ul style="list-style-type: none">● 焦点距離24mmでは撮影距離1.0m以上● 焦点距離28mm以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18-140mm f/3.5-5.6G ED VR	<ul style="list-style-type: none">● 焦点距離18mmでは撮影距離1.0m以上● 焦点距離24mm以上は制約なし

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18-200mm f/3.5-5.6G IF-ED AF-S DX NIKKOR 18-200mm f/3.5-5.6G ED VR II	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離 18mm では撮影距離 1.0m 以上 • 焦点距離 24mm 以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18-300mm f/3.5-5.6G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離 28mm では撮影距離 1.5m 以上 • 焦点距離 50mm 以上は制約なし
AF-S DX NIKKOR 18-300mm f/3.5-6.3G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離 35mm では制約なし
AF-S NIKKOR 16-35mm f/4G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離 24mm では撮影距離 1.5m 以上 • 焦点距離 28mm では撮影距離 1.0m 以上 • 焦点距離 35mm では制約なし
AF-S Zoom-Nikkor 17-35mm f/2.8D IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離 20mm では撮影距離 3.0m 以上 • 焦点距離 24mm では撮影距離 1.0m 以上 • 焦点距離 28mm 以上は制約なし
AF Zoom-Nikkor 18-35mm f/3.5-4.5D IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離 18mm では撮影距離 1.5m 以上 • 焦点距離 24mm 以上は制約なし
AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離 28mm では撮影距離 1.5m 以上 • 焦点距離 35mm では撮影距離 1.0m 以上 • 焦点距離 50mm 以上は制約なし
AF-S Zoom-Nikkor 28-70mm f/2.8D IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離 28mm では撮影距離 1.5m 以上 • 焦点距離 35mm 以上は制約なし
AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED	[撮像範囲] が [DX (24×16)] の場合、全ての撮影距離でケラレが発生します。

- [撮像範囲] が [1.3× (18×12)] のときにケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離は、次の通りです。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S DX NIKKOR 10-24mm f/3.5-4.5G ED	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離 15mm 以上は制約なし
AF-S DX Zoom-Nikkor 12-24mm f/4G IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離 15mm では撮影距離 1.0m 以上 • 焦点距離 18mm 以上は制約なし
AF-S DX Zoom-Nikkor 17-55mm f/2.8G IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> • 焦点距離 20mm では撮影距離 1.0m 以上 • 焦点距離 24mm 以上は制約なし

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AF-S DX NIKKOR 18-300mm f/3.5-5.6G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> 焦点距離28mmでは撮影距離1.0m以上 焦点距離50mm以上は制約なし
AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED	<ul style="list-style-type: none"> 焦点距離24mmでは撮影距離3.0m以上
AF-S NIKKOR 16-35mm f/4G ED VR	<ul style="list-style-type: none"> 焦点距離20mmでは撮影距離1.5m以上 焦点距離24mmでは撮影距離1.0m以上 焦点距離28mm以上は制約なし
AF-S Zoom-Nikkor 17-35mm f/2.8D IF-ED	<ul style="list-style-type: none"> 焦点距離17mmでは撮影距離1.5m以上 焦点距離20mmでは撮影距離1.0m以上 焦点距離24mm以上は制約なし
AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED	<ul style="list-style-type: none"> 焦点距離24mmでは撮影距離1.5m以上 焦点距離28mmでは撮影距離1.0m以上 焦点距離35mm以上は制約なし

- 内蔵フラッシュ撮影時に使用可能な非CPUレンズは、16mmから300mmまでのニッコール（AI-S、AI、改造AI）、ニコンレンズシリーズEが使えます。ただし、次のレンズは使用に制限があります。

レンズ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離
AI 50-300mm f/4.5 AI改 50-300mm f/4.5 AI ED 50-300mm f/4.5 AI-S ED 50-300mm f/4.5	焦点距離70mm 以上では制約なし

✔ 赤目軽減モードについてのご注意

レンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光がさえぎられ、フラッシュ撮影時に十分な赤目軽減効果が得られない場合があります。

株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**